
第 132 回日本森林学会大会プログラム

会期 2021年3月19日(金)～3月23日(火) ただし、22日(月)を除く

会場 Web開催

大会日程

3月19日(金)

9:00～10:30 木材学会・日本森林学会合同オープニングセレモニー

3月20日(土)

9:00～16:15 研究発表(企画シンポジウム, 公募セッション)

16:30～18:30 【学会企画】帰国留学生会員およびアジアの林学会とのネットワークフォーラム

3月21日(日)

9:00～11:00 日本森林学会各賞授賞式・受賞者講演

13:30～17:30 公開合同シンポジウム「シン時代の森林・木材を考える」

18:00～20:00 合同大会企画「若手の会」

3月22日(月) 休止日

3月23日(火)

9:00～17:15 研究発表(部門別発表)

11:00～12:30 【学会企画】高校生ポスター表彰式とパネルディスカッション「大学で森林を学ぶ」

3月24日(水)

11:00～12:30 【学会企画】二学会におけるダイバーシティ推進の取り組みとこれから

16:00～17:30 【学会企画】聞いてみたい!女性研究者によるフィールドワーク&ライブイベント

3月19日(金)～23(火) 研究発表(ポスター)

主催 一般社団法人日本森林学会

後援 東京農工大学大学院農学研究院, 府中市

第131回日本森林学会大会運営委員会

土屋俊幸(委員長), 戸田浩人(副委員長), 崔東寿, 五味高志, 岩岡正博, 加用千裕, 小池伸介, 松本武, 及川洋征, 白木克繁, 竹本太郎, 吉田智弘

連絡先 〒183-8509 東京都府中市幸町3-5-8 東京農工大学農学部

第132回日本森林学会大会運営委員会

E-mail: 132committee-groups@go.tuat.ac.jp

日本木材学会・日本森林学会公開合同シンポジウム

日時：3月21日（日）13:30～17:30

使用システム：Zoomウェビナー

テーマ：シン時代の森林・木材を考える

内容：コロナ禍をはじめとした感染症の危機、気候危機、人口減少社会の到来、生物多様性の危機等、いま人間社会は、未曾有の複合的な危機を迎えています。その解決のために社会を大きく変革していく中で、総合的かつ連携的な取り組みが全世界的に求められています。そうであるならば、いまこそ、来るべき社会変革における森林・木材のあり方について、長中期的に検討し、我々が進むべき道筋について議論を始めることが必要だと考えます。本シンポジウムでは、森林科学および木材科学両分野の専門家を迎えて、「シン(新・森)時代の森林・木材」について広く、深く考えたいと思います。

講演者：

高田 秀重 氏 (東京農工大学)

五味 高志 氏 (東京農工大学)

石崎 涼子 氏 (森林研究・整備機構森林総合研究所)

中嶋 一郎 氏 (住友林業株式会社)

福島 和彦 氏 (名古屋大学)

2021 年度 日本森林学会各賞 受賞者および受賞業績

1. 日本森林学会賞

伊藤 哲 (宮崎大学)
生態系サービスを考慮した人工林の配置論と施業論

大橋 瑞江 (兵庫県立大学)
樹木根系の持つ炭素の貯留能とその動態に関する研究

2. 日本森林学会奨励賞

後藤 栄治 (九州大学)
Chloroplast accumulation response enhances leaf photosynthesis and plant biomass production

久野 真純 (東京大学)
Species-rich boreal forests grew more and suffered less mortality than species-poor forests under the environmental change of the past half-century

3. 日本森林学会学生奨励賞

中山 理智 (投稿時：京都大学 応募時：京都大学)
Does conversion from natural forest to plantation affect fungal and bacterial biodiversity, community structure, and co-occurrence networks in the organic horizon and mineral soil?

執行 宣彦 (投稿時：東京大学 応募時：森林総合研究所)
Plant functional diversity and soil properties control elevational diversity gradients of soil bacteria

4. 日本森林学会功績賞

大石 康彦 (森林総合研究所)
森林教育の研究

篠原 健司 (理化学研究所)
樹木分子生物学の研究基盤の構築

5. Journal of Forest Research 論文賞

Takashi Masaki, Shin Abe, Shoji Naoe, Shinsuke Koike, Ami Nakajima, Yui Nemoto and Koji Yamazaki
Horizontal and elevational patterns of masting across multiple species in a steep montane landscape from the perspective of forest mammal management. (Journal of Forest Research Vol.25, No.2, 92–100, 2020)
(筆頭著者の所属：森林総合研究所)

6. 日本森林学会誌論文賞

山本 伸幸
日本における森林計画制度の起源. (日本森林学会誌 102 巻 1 号, 24–30, 2020 年) (筆頭著者の所属：森林総合研究所)

山田 亮・白岡 千帆里・能條 歩
福島県在住の小中学生を対象とした森林体験を伴う自然体験活動が生きる力と自然との共生観に及ぼす効果. (日本森林学会誌 102 巻 1 号, 69–76, 2020 年) (筆頭著者の所属：北海道教育大学 岩見沢校)

3月21日(日)9:00から、授賞式ならびに学会賞、奨励賞、学生奨励賞の受賞者講演をオンラインで行います。また、大会開催期間中、Journal of Forest Research 論文賞・日本森林学会誌論文賞のポスターをオンラインのポスター会場にて展示します。

大会へ参加される方へ

学術講演集

冊子体の学術講演集(要旨集)は配布しません。各要旨は、日本森林学会ウェブサイト (<http://www.forestry.jp/>) からリンクしたサイトにおいて3月中旬から閲覧できる予定です。

大会アカウントの登録

大会は、Linc Biz を用いて開催します。参加登録をされた皆様には、以下の送信者名・タイトルの招待メールが届きますので、そのメールに従って Linc Biz にアクセスし、アカウント登録をしてください(送信者名: Linc Biz アカウントサービス, 件名: LINC Biz のユーザーに招待されました)。アカウント登録後にメールが通知されるので、表示されるログイン URL をクリックしてログインしてください。(或いは、<https://getlincbiz.jp>)。

研究発表される方へ

研究発表者は、口頭発表、ポスター発表いずれについても、研究発表ファイルを事前に提出して頂きます。

口頭発表

口頭発表は Zoom Webinar を利用して行います。Linc Biz からお入りください。発表はプログラムに基づき、リアルタイムでの発表です。発表時間は、一般部門および公募セッションの場合は 15 分(発表 12 分、質疑 3 分)です。企画シンポジウムは、コーディネータが時間内で配分した時間となります。発表当日は、プログラムに沿って、発表者の操作でプレゼンテーション動画を画面共有して配信してください。画面共有ができないなどのトラブルが発生した際には、事前提出していただいたファイルを用います。2021 年 3 月 12 日 (金)までに、森林学会 web site の各種申込みメニューから提出してください。事前にファイルが提出されていないと、当日のトラブル発生の際には講演中止となります。

事前発表操作練習は 2021 年 2 月中旬に行います。日時や手順などの詳細は、後日ご連絡いたします。質疑応答は発表時間中に「Q&A」に記入いただいたものに対して、発表者が口頭で応答する方法とします。座長は一般部門の発表には、4~5 題発表ごとに配置します。

ポスター発表

ポスター発表は Linc Biz を利用して行います。事前に提出いただいたポスターファイルを、学会の大会期間中に大会特設ウェブサイトに掲示します。3 月 12 日 (金) から 18 日 (木) までの間にオンラインポスターを各自に割り当てられた Linc Biz 上のパブリックチャンネルに掲示してください。ポスターは jpeg 形式の画像ファイルでアップロードしてください。パワーポイント形式は Linc Biz では開くことができません。必ず jpeg 形式の画像ファイルで掲示してください。1 件 100 MB までアップロード可能です。質疑応答は掲示期間中にチャットで質問を受け付けて、発表者はチャットで応答する方法とします。リアルタイム の質疑応答 (コアタイム) は行いません。

企画シンポジウム等での発表

運営はコーディネータ(責任者)に一任していますので、コーディネータからの指示に従って準備してください。また、本大会はオンラインであるため、従来最終日に行っていた関連研究集会等を大会としてまとめて行うことはいたしません。関連研究集会等を別途ご準備されている場合は、そのコーディネータ(責任者)などへお問い合わせください。

大会スケジュール 3月20日

開始時刻／会場	Room 1	Room 2	Room 3	Room 4	Room 5	Room 6	Room 7	Room 8	Room 9	Zoom
8:30										
8:45	S1	T1	S2	S3	T2	S4	S5	S6	T3	
9:00		T1-1			趣旨説明				T3-1	
9:15		T1-2			T2-1				T3-2	
9:30		T1-3			T2-2	S4-1			T3-3	
9:45		T1-4			T2-3	S4-2	S5-1	S6-1	T3-4	
10:00	S1-1	調整・討論	S2-1	S3-1	T2-4	S4-3	S5-2	S6-2	調整・討論	
10:15	S1-2	T1-5	S2-2	S3-2	T2-5	S4-4	S5-3	S6-3		
10:30	S1-3	T1-6	S2-3	S3-3	総合討論	S4-5	S5-4	S6-4		
10:45	S1-4	T1-7	S2-4	S3-4	総合討論	S4-6	S5-5	S6-5		
11:00	S1-5	T1-8	S2-5	S3-5		S4-7	S5-6			
11:15		調整・討論				S4-8				
11:30		総合討論				S4-9				
11:45		総合討論								
12:00										
12:15										
12:30										
12:45	T4	S7	S8	S9	S10	林政1	T5	S11		
13:00	T4-1					A1	趣旨説明			
13:15	T4-2					A2	T5-1			
13:30	調整・討論					A3	T5-2			
13:45						A4	T5-3			
14:00			S8-1	S9-1	S10-1	A5	調整・討論	S11-1		
14:15		S7-1	S8-2	S9-2	S10-2	調整・討論	T5-4	S11-2		
14:30		S7-2	S8-3	S9-3	S10-3	A6	T5-5	S11-3		
14:45		S7-3	S8-4	S9-4	S10-4	A7	T5-6	S11-4		
15:00			S8-5	S9-5	S10-5	A8	総合討論	S11-5		
15:15			S8-6	S9-6	S10-6	A9		S11-6		
15:30					S10-7	A10				
15:45					S10-8	A11				
16:00						調整・討論				
16:15										学会企画
16:30										帰国留学生 会員および アジアの林 学会との ネットワーク フォーラム
16:45										
17:00										
17:15										
17:30										
17:45										
18:00										
18:15										
18:30										

■企画シンポジウム一覧(詳細は別ページをご覧ください)

- S1. 階層モデリングは森林の隠れた生態の状態の推測を可能にする
- S2. 2011 -> 2021 -> 2031: 森林の放射能研究のこれまでとこれから
- S3. 森林遺伝研究で明らかにするブナの生態・生理—樹木の生態遺伝学最前線—
- S4. 深層学習による森林画像の分析とその活用
- S5. 森の根の生態学—樹木根の成長と機能共同企画シンポジウム—
- S6. 燃料革命以降の森林状況変化の理解と、それらが水・土砂・流木の流出に及ぼす影響をふまえた災害予測の可能性
- S7. 生理部門企画シンポジウム「分析のツボ」と研究交流の促進
- S8. 土木分野における木材の利用促進に向けて
- S9. スギの生育および雄花着花に影響を与える環境要因の解明とその評価—気候変動に適応した林木育種の可能性—
- S10. 森林教育研究のさらなる展開を目指して—森林、自然、木材を活用した教育活動の研究の可能性を探る—
- S11. 水源涵養機能の科学的評価を考える

■公募セッション一覧(詳細は別ページをご覧ください)

- T1. 未利用木材利用可能量推計およびサプライチェーンマネジメント
- T2. 森林環境の持つ保健休養機能の基礎的研究と応用研究
- T3. 熱帯林研究
- T4. 森林におけるシカ問題の解決に向けて
- T5. 樹木根の成長と機能

大会スケジュール 3月21日

開始時刻／会場	Room 1
8:30	
8:45	授賞式・受賞者講演
9:00	日本森林学会 各賞授賞式・受賞者講演
9:15	
9:30	
9:45	
10:00	
10:15	
10:30	
10:45	
11:00	
11:15	
11:30	
11:45	
12:00	
12:15	
12:30	
12:45	
13:00	
13:15	シンポジウム
13:30	公開シンポジウム 「シン時代の森林・木材を考える」
13:45	
14:00	
14:15	
14:30	
14:45	
15:00	
15:15	
15:30	
15:45	
16:00	
16:15	
16:30	
16:45	
17:00	
17:15	
17:30	
17:45	
18:00	
18:15	

大会スケジュール 3月23日

開始時刻／会場	Room 1	Room 2	Room 3	Room 4	Room 5	Room 6	Room 7	Room 8	Room 9	Zoom
8:30										
8:45	経営1	林政2	遺伝・育種	植物生態	利用		特用林産	立地		
9:00	D1	A12	F1	H1	K1	風致・観光1	N1	I1		
9:15	D2	A13	F2	H2	K2	B1	N2	I2		
9:30	D3	A14	F3	H3	K3	B2	総合討論	I3		
9:45	D4	A15	F4	調整・討論	調整・討論	B3		I4		
10:00	D5	調整・討論	調整・討論	H4	K4	B4		調整・討論		
10:15	調整・討論	A16	F5	H5	K5	調整・討論		調整・討論		
10:30	D6	A17	F6	H6	K6	B5		I5		
10:45	D7	A18	F7	H7	調整・討論	B6		I6		学会企画
11:00	D8	A19	F8	調整・討論		B7		I7		高校生ポスター表彰式とパネルディスカッション「大学で森林を学ぶ」
11:15	D9	A20	調整・討論			B8		I8		
11:30	D10	調整・討論				B9		調整・討論		
11:45	調整・討論					調整・討論				
12:00										
12:15										
12:30										
12:45	経営2	林政3		造林	防災・水文	風致・観光2	教育	微生物		
13:00	D11	A21		E1	J1	B10	C1	M1		
13:15	D12	A22	動物・昆虫	E2	J2	B11	C2	M2		
13:30	D13	A23	L1	E3	J3	B12	C3	総合討論		
13:45	D14	A24	L2	E4	J4	B13	C4			
14:00	D15	A25	L3	調整・討論	調整・討論	調整・討論	調整・討論			
14:15	調整・討論	調整・討論	調整・討論	E5	J5	B14	C5			
14:30	D16	A26	L4	E6	J6	B15	C6			
14:45	D17	A27	L5	E7	J7	B16	C7			
15:00	D18	A28	L6	E8	J8	B17	C8			
15:15	D19	調整・討論	L7	調整・討論	調整・討論	B18	調整・討論			
15:30	D20		L8		J9	B19	C9		生理	
15:45	調整・討論		調整・討論		J10	B20	C10		G1	
16:00	D21		L9		J11		C11		G2	
16:15	D22		L10						G3	
16:30	D23		L11						G4	
16:45	D24		L12						G5	
17:00	調整・討論		調整・討論						総合討論	
17:15										
17:30										

研究発表題目（企画シンポジウム・公募セッション）3月20日 午前1/2

会場	Room 1	Room 2	Room 3	Room 4	Room 5
開始時刻	S1 階層モデリングは森林の隠れた生態的状態の推測を可能にする	T1 未利用木材利用可能量推計およびサプライチェーンマネジメント	S2 2011 → 2021 → 2031 : 森林の放射能研究のこれまでとこれから	S3 森林遺伝研究で明らかにするブナの生態・生理—樹木の生態遺伝学最前線—	T2 森林環境の持つ保健休養機能の基礎的研究と応用研究
9:00	S1-1 森林科学分野における階層モデルの有用性: 飯島勇人 (森林総研) ら S1-2 カメラトラップ法におけるツキノワグマ撮影データの質・量と推定個体数: 星崎和彦 (秋田県立大学) ら	T1-1 木質バイオマス供給の現状と課題: 久保山裕史 (国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所) ら T1-2 木質バイオマス燃料の製造と流通について: 佐藤政宗 (株式会社森のエネルギー研究所) ら	S2-1 日本の森林における水文過程にともなう放射性セシウム移行: 加藤弘亮 (筑波大学) ら S2-2 木材の放射性セシウム汚染の実態: 10年間の変化や特徴について: 大橋伸太 (森林総合研究所) ら S2-3 福島原発事故により野生生物や生態系にどのような影響があったのか?: 玉置雅紀 (国立環境研究所) ら S2-4 福島第一原発事故の環境移行データを世界に伝えるために: 田上恵子 (量子科学技術研究会発機構) ら S2-5 福島県の林業復興にこれから求められる放射能研究: 小川秀樹 (福島県) ら	S3-1 Chloroplast genome sequencing reveals complex patterns of ancient and recent chloroplast sharing in Japanese <i>Fagus</i> : Worth James (森林総合研究所) ら S3-2 ブナの葉の個体内変異とその地域間差: 気候変動への順化予測を目標して: 石井弘明 (神戸大学) ら S3-3 ブナの枝形態と展葉フェノロジーの遺伝的分化パターン: 長田典之 (名城大学) ら S3-4 ブナの分布域における集団構造パターンと気候勾配に関連した適応的遺伝変異: 三須直也 (名古屋大学大学院) ら S3-5 北進するブナの遺伝的動態: 北村系子 (国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所) ら	趣旨説明 T2-1 都市近郊林における自然観察と自己カウンセリングが心身に与える影響の比較: 高山範理 (国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所) T2-2 地域住民を対象に大学演習林で行った森林散策カウンセリングの2事例: 竹内啓恵 (全国森林レクリエーション協会) T2-3 注意回復要素とマインドfulnessとの関連 (第2報) 青年と中年年の比較: 尾崎勝彦 (フリーランス)
9:15	S1-3 階層モデリングによるデータ統合: 地理的スケールでの種個体数分布の推定: 深谷肇一 (国立環境研究所) ら S1-4 植生被度階級データの状態空間モデリング: 伊東宏樹 (森林総合研究所) ら S1-5 階層モデルの長所と短所: 十余年の個人的経験を振り返って: 山浦悠一 (森林総合研究所) ら	T1-3 川中企業による小型ガス化熱電併給装置向けの燃料品質管理: 横田康裕 (森林総合研究所) ら T1-4 炭素負債を巡る国際的な議論と日本の林業・バイオマス政策への示唆: 相川高信 (公益財団法人自然エネルギー財団) ら			T2-4 保健休養利用のための放置林の整備 一都市近郊の病院林の事例一: 上原巖 (東京農業大学)
9:30		T1-5 移動式テツバの性能評価に関する研究: 小島健一郎 (ラブ・フォレスト株式会社) ら T1-6 小規模伐出システムによる広葉樹収穫の経済性と未利用材供給可能性: 鈴木保志 (高知大学) ら T1-7 中間土壌に着目した未利用木材の流通システムの検討: 酒井明香 ((独)北海道立総合研究機構林産試験場) ら T1-8 令和元年10月台風第19号による栃木県の林道災害分析: 有賀一広 (宇都宮大学) ら			T2-5 森林空間を活用した音楽会の試みと自由記述アンケートから得られたこと: 藤原章雄 (東京大学)
9:45		調整・討論			総合討論
10:00					総合討論
10:15					
10:30					
10:45					
11:00					
11:15		調整・討論			
11:30		総合討論			
11:45		総合討論			
12:00					
12:15					
12:30					

研究発表題目（企画シンポジウム・公募セッション・部門別口頭発表） 3月20日 午前 2/2

会場	Room 6	Room 7	Room 8	Room 9
開始時刻	S4 深層学習による森林画像の 分析とその活用	S5 森の根の生態学 - 樹木根の成長と機能共同企画 シンポジウム -	S6 燃料革命以降の森林状況変化の理解と、 それらが水・土砂・流木の 流出に及ぼす影響を ふまえた災害予測の可能性	T3 熱帯林研究
9:00	S4-1 深層学習に基づくUAV オルソ画像からの樹種判別技術の開発：鴨井伸哉（金沢工業大学）ら S4-2 UAV オルソ画像認識 AI エンジンによる森林境界抽出：木村一也（石川県森林組合連合会）ら	S5-1 樹木の根系と分布：大橋瑞江（兵庫県立大学）ら S5-2 樹木根の成長と構造の基礎的な仕組みと競争・共生関係：牧田直樹（信州大学）ら S5-3 森林の物質循環における樹木根の役割：野口享太郎（森林総合研究所東北支所）ら S5-4 環境変動と樹木根：中路達郎（北海道大学）ら S5-5 樹木根の発揮する減災機能：山瀬敬太郎（兵庫県立農林水産技術総合センター）ら S5-6 樹木根の担う生態系サービスと持続可能な社会への貢献：平野森弘（名古屋大学）ら	S6-1 土砂災害の発生状況と気候変動・山地環境：内田太郎（筑波大学）ら S6-2 歴史資料に基づく江戸時代以降の植生変化と土壌特性との関係を考える：岡本透（森林総合研究所）ら S6-3 農山村における森林資源利用と地域環境へのインパクト：齋藤暖生（東京大学）ら S6-4 拡大造林期に沿岸に植栽された樹木の流木化とその流路地形への影響：芳賀弘和（鳥取大学）ら S6-5 日本の人工林林齢構成と土砂災害の特徴の比較 -過去、現在、将来-：鈴木雅一（東京大学）ら	T3-1 Comparative assessment of the development and status of biomass briquettes production in a global scale: コロネリクリスティアン（Tokyo University of Agriculture）ら T3-2 The challenges of K-coefficient distribution under Payment for Forest Environmental Services in Central Vietnam: HOANG PHANBICH NGOC（九州大学）ら T3-3 Lessons for stakeholders' collaborations in transdisciplinary research: Case of Indonesian industrial tree plantation: 藤原敬大（九州大学）ら T3-4 Cases of elite capture in tropical forest governance and their implications: a synthesis of previous studies from Asia: 大田真彦（九州工業大学）ら
9:15	S4-3 深層学習に基づく全天球画像からの人工林材積・原木品質の推定技術の開発：林航希（金沢工業大学大学院）ら S4-4 全天球画像 AI による人工林の材積・原木品質推定技術の現場実装：上野直人（株式会社エイブルコンピュータ）ら S4-5 深層学習に基づくUAV オルソ画像を用いたコナラ判別と材積等の推定：矢田豊（石川県農林総合研究センター林業試験場）ら			
9:30	S4-6 UAV 撮影画像由来の人工林材積推定結果の広域展開法の研究開発：石原正彦（金沢工業大学）ら S4-7 高解像度衛星画像及び深層学習を用いたメッシュ単位のスギ材積推定法の開発：吉田直輝（金沢工業大学大学院）ら S4-8 画像認識 AI を利用した森林調査効率化 Web アプリケーションの試作：村上良平（株式会社エイブルコンピュータ）ら			
9:45	S4-9 スマート林業の実現に向けた取組について：鈴木崇之（林野庁）ら			
10:00				調整・討論
10:15				
10:30				
10:45				
11:00				
11:15				
11:30				
11:45				
12:00				
12:15				
12:30				

研究発表題目（企画シンポジウム・公募セッション）3月20日 午後1/2

会場	Room 1	Room 2	Room 3	Room 4	Room 5
開始時刻	T4 森林におけるシカ問題の 解決に向けて	S7 生理部門企画シンポジウム 「分析のツボ」と研究交流の促進	S8 土木分野における木材の 利用促進に向けて	S9 スギの生育および雄花着花に 影響を与える環境要因の解明と その評価 —気候変動に適応した林木育種 の可能性—	S10 森林教育研究のさらなる展開を目 指して —森林、自然、木材を活用した 教育活動の研究の 可能性を探る—
13:00	T4-1 シカによる広葉樹稚樹採食に対 するササの防御効果：明石信廣（北海道 立総合研究機構）ら	S7-1 樹木木部細胞壁の形成を観察す る：竹内美由紀（東京大学）ら S7-2 樹木木部の通水機能の正しい評 価方法：矢崎健一（森林総合研究所） ら	S8-1 土木分野における CLT の活用： 佐々木貞信（北海道大学大学院）ら S8-2 土木構造物への木材利用につい て：野田龍（秋田県立大学）ら S8-3 木質材料の屋外および海洋環境 での利用：石川敦子（森林総合研究所） ら S8-4 森林資源由来の材料を活用した 路網保全技術の開発：山口智（国立研 究開発法人森林研究・整備機構 森林 総合研究所）ら S8-5 振動試験による木製ガードレール 横梁の強度特性の推定：久保島吉貴 （森林総合研究所）ら S8-6 非接触機器を使った木製治山堰 堤の形状測定手法の検討：小川泰浩 （森林総合研究所）ら	S9-1 気候変動の時代における林木育 種：今だからやれること、やるべきこと ：後藤晋（東京大学）ら S9-2 大規模データから明らかにするス ギの成長における環境応答性：松下通 也（森林総合研究所林木育種センター） ら S9-3 人工環境下におけるスギ苗の環 境応答性評価技術の開発と多数系統評 価：高島有哉（森林総合研究所 林木 育種センター）ら S9-4 樹木の生育に環境要因が与える 影響：13C ラベリング手法を用いたアプ ローチ：檀浦正子（京都大学）ら S9-5 遺伝子発現解析によるスギの環 境応答性評価の可能性：永野聡一郎 （森林研究・整備機構 森林総合研 究所林木育種センター）ら S9-6 高温・乾燥がスギ雄花着花量に 与える影響の評価：坪村美代子（森林 研究・整備機構 森林総合研究所）ら	S10-1 都道府県別の少年団連盟による 「緑の少年団」の実態と課題：町田怜 子（東京農業大学）ら S10-2 森林教育に関する国際比較—海 外の研究動向の紹介—：岡田美香（林 業経済研究所）ら S10-3 社会教育のための地域密着型ネ イチャーセンターが果たする教育と地域 づくり：吉元美穂（NPO 法人登別自然 活動支援組織モモンガくらぶ）ら S10-4 生きづらさを抱えた子どもを対象 にした森林教育の効果：近藤聡（一般 社団法人ぎるほーすセラピー子育てラ ボ / NPO 法人こころをつなぐほーす セラピーぐりん・はあと）ら S10-5 自然体験活動における質的研 究：テキスト分析を例に：小森伸一 （東京学芸大学）ら S10-6 北海道産カンパ類の用途開発 — 野球バットの事例：大崎久司（道総 研 林産試験場）ら S10-7 教員養成学部における木材利用 に関する教育研究への試み：田邊純（千 葉大学）ら S10-8 木製品の製作と被写体認識基盤 サービスを用いた情報化：東原貴志（上 越教育大学）ら
13:15	T4-2 皆伐地の食痕によるシカ出現頻度 の推定：大谷達也（森林総合研究所） ら	S7-3 樹木の水分吸収についての根も 葉もある話—二重水標識法による評 価—：香川聡（森林研究・整備機構） ら			
13:30	調整・討論				
13:45					
14:00					
14:15					
14:30					
14:45					
15:00					
15:15					
15:30					
15:45					
16:00					

研究発表題目（企画シンポジウム・公募セッション・部門別口頭発表） 3月20日 午後 2/2

会場	Room 6	Room 7	Room 8	Room 9
開始時刻	林政 1	T5 樹木根の成長と機能	S11 水源涵養機能の科学的評価を考える	
13:00	A1 宮崎県でのアンケート調査によるコンテナ苗生産・植林必要人工数の把握：安村直樹（東京大学）ら	趣旨説明	S11-1 森林の水源涵養機能の科学的な評価に向けて：これまでの観測と今後の展望：五味高志（東京農工大学）ら S11-2 日本と米国の森林伐採試験から見える森林の水源涵養機能：小田智基（森林総合研究所）ら	
13:15	A2 再造林における費用構成と所有者負担—南九州の森林組合を事例に—：尾分達也（宮崎大学）ら	T5-1 異なる土壌環境における100年生ヒノキ林のスカンパ法を用いた細根動態評価：吉江凛平（名古屋大学）ら	S11-3 森林総合研究所による森林流域での長期・広域的な降水・流出観測：清水貞範（森林研究・整備機構 森林総合研究所）ら	
13:30	A3 旭川林産協同組合北海道産銘木市売事業にみる銘木需給の現状：嶋瀬拓也（国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所）ら	T5-2 混交二次林とスギ人工林における細根動態の比較：桑辺七穂（兵庫県立大学）ら	S11-4 スギ林・ヒノキ林管理による蒸発散変化を予測するモデルを作った：小松光（国立台湾大学）ら S11-5 森林薄から森林水源涵養機能評価をつなげた広域評価：邱瑋璋（東京農工大学）ら	
13:45	A4 日本における針葉樹製材用丸太の需給モデルの推定：榎熊悠宇至（森林総合研究所）ら	T5-3 根の時空間的動態パターンの推定に必要なスカンパ画像の取得地点数の解析：遠藤いず貴（兵庫県立大学）ら	S11-6 森林の水源涵養機能の科学的な評価に向けて：モデル化の展望：堀田紀文（東京大学）ら	
14:00	A5 九州における福島原発事故後のシイタケ原木の移出構造～大分県を事例に～：石原昌宗（九州大学）ら	調整・討論		
14:15	調整・討論	T5-4 針葉樹4種における細根の無機態窒素吸収と根特性との関係：伊藤拓生（信州大学）ら		
14:30	A6 建築物への木材利用と炭素クレジット—GHGゼロ排出に貢献する道筋：藤原敬（林業経済研究所）ら	T5-5 根滲出物の樹種特異性：野外の根は何をどれくらい滲出させるのか？：峯麻衣子（信州大学）ら		
14:45	A7 製材工場におけるスクリュ式小型蒸気発電機導入による環境効果と経済効果：立花敬（筑波大学）ら	T5-6 二周波地中レーダを用いた高深度解析による海岸林クロマツの根系構造推定：池野英利（兵庫県立大学）ら		
15:00	A8 沖縄県におけるフクギ屋敷林の炭素貯蔵量：陳碧霞（琉球大学）ら	総合討論		
15:15	A9 農山漁村再エネ法の意義と課題：岩手県軽米町のメガソーラー計画を事例に：高野涼（岩手大学）ら			
15:30	A10 森林面積変化に影響を与える要因に関する計量経済学的研究：中国の事例研究：TANJIAZE（筑波大学大学院）ら			
15:45	A11 森林減少の発生メカニズムと有効な対策：宮本基枝（森林総合研究所）ら			
16:00	調整・討論			

研究発表題目（部門別口頭発表） 大会スケジュール 3月23日 午前 1/2

会場	Room 1	Room 2	Room 3	Room 4	Room 5
開始時刻	経営 1	林政 2	遺伝・育種	植物生態	利用
9:00	D1 植栽を推進する地域の設定が伐採傾向に与える影響：山田祐亮（国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所）ら	A12 市町村森林行政の体制と業務：石崎涼子（森林研究・整備機構 森林総合研究所）ら	F1 TLS 点群を用いた森林の樹木形質の抽出手法：江藤信輔（電気通信大学）ら	H1 淡路島の竹林におけるリター動態の解明：植田多聞（兵庫県立大学）ら	K1 現場IoTによる生産作業の素材情報共有とSCM構築：仁多見俊夫（東京大学大学院）ら
9:15	D2 森林の計画・計画学の特徴と目的：他分野の計画の視座を交えたレビュー：富山啓介（東京大学）ら	A13 森林経営管理制度下の経営管理実施権を巡る初動一岩手県事例から：大塚生美（国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所）ら	F2 効率的な花粉数計測法の開発とスギ雄花一粒あたりの花粉数に影響する要因：角井宏行（新潟大学）ら	H2 モニ1000 愛知赤津サイトにおけるヒノキ球果の落下特性：澤田晴雄（東京大学）ら	K2 教示データを用いたグループローグ操作の自動化の検討：山口浩和（森林研究・整備機構 森林総合研究所）ら
9:30	D3 共有資源管理の原則とアグロエコロジーの考察：小張真理子（筑波大学）ら	A14 野生動物の生息地管理における府県の森林環境税の役割：岸岡智也（金沢大学）ら	F3 スギにおける野外での溶液授粉の効果：宮本尚子（森林総合研究所林木育種センター東北育種場）ら	H3 南アルプス大規模雪崩跡地における攪乱強度と実生密度の関係：宮城昂（信州大学大学院）ら	K3 森林作業シミュレーションの三次元可視化と作業評価：伊能健悟（東京大学）ら
9:45	D4 森林の持つ多面的機能の統合的評価法に関する一考察：納富信（早稲田大学）ら	A15 森林環境譲与税を活用した都道府県による市町村支援の概況と課題：香坂玲（名古屋大学）ら	F4 ヒノキの水分的ストレスによる着花促進技術について：福田拓実（静岡県農林技術研究所森林・林業研究センター）ら	調整・討論	調整・討論
10:00	D5 クラウド型森林GISの現状と課題：鹿又秀聡（国口研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所）ら	調整・討論	調整・討論	H4 落葉広葉樹林における低木の群集構造：正木隆（国立研究開発法人森林研究・整備機構）ら	K4 チェーンソー伐木作業のための林業安全ゲームの教育効果：山田容三（愛媛大学）ら
10:15	調整・討論	A16 第二次世界大戦前における木炭検査員の業務一群馬県事例として一：土屋智樹（東京農業大学大学院）ら	F5 スギの種子発芽に及ぼす温度の影響：木村恵（国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所）ら	H5 気候変動下で風倒後の管理が北方林の種組成に及ぼす長期的影響：堀田直（北海道大学）ら	K5 斜面上のヒノキの引き倒し抵抗力の方向による違い：戴承睿（東京農工大学）ら
10:30	D6 天然林樹木個体群を対象とした減反率の推定：広嶋卓也（東京大学）ら	A17 地域別の林業関係者間の関係性と特徴～群馬県・埼玉県林業地を対象に～：石佳凡（早稲田大学大学院環境・エネルギー研究科）ら	F6 アカマツ広域産地試験の岩手県滝沢試験地における季節成長の産地間変異：那須仁弥（国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所林木育種センター東北育種場）ら	H6 なぜ針葉樹と広葉樹が共存できるのか？：シミュレーションによる検討：佐藤永（海洋研究開発機構）ら	K6 林況と歩行負担を考慮した林内路網のトレッキング利用・ケーススタディ熊野：藤井美由紀（東京大学）ら
10:45	D7 単木の樹冠長と胸高直径成長の関係およびその推移について：田中邦宏（国研）森林総合研究所 関西支所）ら	A18 近年の生産森林組合の事業実施状況の変化について一規模による差異を中心に：松下幸司（京都大学）ら	F7 グイマツ遺伝資源の系統構成の偏りを葉緑体ゲノムスクリーニングで調べる：石塚航（北海道立総合研究機構林業試験場）ら	H7 森林モニタリングから環境変動影響を評価することは何故難しいのか：久米篤（九州大学）ら	調整・討論
11:00	D8 病虫害拡散モデルの構築：伊高静（東京理科大学）ら	A19 入会林野整備実績からみた入会林野の登記名義の現状：山下詠子（東京農業大学）ら	F8 亜高山帯および冷温帯に分布するカバノキ属複数種の時空間的集団動態史：加藤朱音（筑波大学）ら	調整・討論	
11:15	D9 Effects of 14-year deer exclusion and gap creation on the recruitment process of late-seral species:AngJeffery（東京大学）ら	A20 中国における自然保護地体系に関する研究 国家公園設立にむけた動向：鄧文（九州大学）ら	調整・討論		
11:30	D10 Forest carbon stock estimation by systematic sampling plot and uncertainty analysis: 仲摩栄一郎（公益財団法人国際緑化推進センター）ら	調整・討論			
11:45	調整・討論				
12:00					
12:15					
12:30					

研究発表題目（部門別口頭発表）大会スケジュール 3月23日 午前 2/2

会場	Room 6	Room 7	Room 8	Room 9
開始時刻		特用林産	立地	
9:00	風致・観光 1	N1 クロモジの精油抽出量および精油成分組成の季節変化：高橋輝昌（千葉大学）ら	I1 樹幹流によって土壌深部へ供給される放射性セシウム：今村直広（森林総合研究所）ら	
9:15	B1 高山植生の復元における登山道侵食防止マットの施工効果：愛甲哲也（北海道大学）ら	N2 クロモジ苗木の植栽後4年間の生育特性：安田慎之介（千葉大学）ら	I2 冷温帯における3年間の倒木材密度減少の樹種間比較：鈴木智之（東京大学）ら	
9:30	B2 立山ルートにおける緑化事業の現状と今後の課題：大宮徹（富山県森林研究所）ら	総合討論	I3 コナラ枯死木の分解過程の緯度比較：ナラ枯れとの関係：深澤遊（東北大学）ら	
9:45	B3 森林植物園における外国産植栽樹種からの実生調査：小林徹哉（公益財団法人神戸市公園緑化協会 神戸市立森林植物園 / 神戸大学人間発達環境学研究所）ら		I4 Yasso モデルを用いたナラ枯れ枯死木の分解CO2放出量の広域環境応答推定：小南裕志（国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所）ら	
10:00	B4 岐阜県大湫町神明神社におけるスギ巨木倒壊の原因と管理の問題点：黒田慶子（神戸大学）ら		調整・討論	
10:15	調整・討論		調整・討論	
10:30	B5 小笠原諸島におけるガイドツアーへの参加と満足度の実態：仲七重（公益財団法人日本交通公社）ら		I5 八郎潟干拓地の防風林における土壌からの亜酸化窒素ガス放出量の季節変化：細川奈々枝（農研機構 農業環境変動研究センター）ら	
10:45	B6 屋久島におけるガイド制度の認識に関する研究—ガイドへの意識調査—：濱岡宙穂（九州大学）ら		I6 スギ・ヒノキ林における表層土壌酸性化の30年間の進行・抑制：西村滯（名古屋大学大学院）ら	
11:00	B7 国立公園における二次自然の保全にむけた基金の枠組みの検討：山島有喜（東京大学大学院）ら		I7 フラットヘッドスキャナにより撮影された土壌画像に対する輝度補正手法：前川新司（兵庫県立大学）ら	
11:15	B8 奥日光地域の駐車場を活用した環境保全基金の導入可能性の検討：山本清龍（東京大学）ら		I8 攪乱を受けた土壌団粒の野外条件下での再生過程：宇津木佑夏（信州大学）ら	
11:30	B9 日本におけるキャンプ場の森林利用の動向：平野悠一郎（森林総合研究所関西支所）ら		調整・討論	
11:45	調整・討論			
12:00				
12:15				
12:30				

研究発表題目（部門別口頭発表） 大会スケジュール 3月23日 午後1/2

会場	Room 1	Room 2	Room 3	Room 4	Room 5
開始時刻	経営 2	林政 3		造林	防災・水文
13:00	D11 深層学習を用いた時系列航空写真の解析：米康允（島根大学）ら	A21 養蜂および送粉者保護と森林管理制度の関係：田村興江（総合地球環境学研究所）ら		E1 カラマツ類における挿し付け後の種の萎れを引き起こす影響要因：今博計（北海道立総合研究機構）ら	J1 港湾建設に伴う海岸線変化が生じさせた海岸林樹高成長の空間的不均質性：岩崎健太（北海道立総合研究機構）ら
13:15	D12 UAV 画像の撮影時期による針葉樹分類モデルの精度比較：藤平光希（信州大学大学院）ら	A22 トチモチ文化の伝承とトチノミの資源利用—京都府南丹市美山町を中心に—：坂野上なお（京都大学）ら	動物・昆虫	E2 土壌水分に着目した早生樹センダンの造林適地の検討：江口則和（人間環境大学）ら	J2 2018年台風24号による強風下での立木倒伏プロセス：上村佳奈（信州大学）ら
13:30	D13 UAVと機械学習を用いた造林木自動検出技術の開発：中川太人（信州大学大学院）ら	A23 生態系サービスの提供についての森林所有者の意識について：柴田晋吾（上智大学）ら	L1 オガサワラオオコウモリの利用する森林環境：鈴木創（NPO法人小笠原自然文化研究所）ら	E3 植栽密度がスギ植栽木と周囲の植生の競合状態に及ぼす影響：野口麻穂子（森林総合研究所東北支所）ら	J3 樹液流の計測に基づくコナラ林の一成長期にわたるオゾン吸収量の推定：田中亮志（東京農工大学）ら
13:45	D14 ドローン空中写真によるブナ林の生物物理量の季節変化の把握：小谷英司（森林総合研究所）ら	A24 都市近郊住民の獣害対策意識：林雅秀（山形大学）ら	L2 丹沢山地ブナ林における森林性野ネズミの生息に対する植生保護の効果：大石圭太（神奈川県自然環境保全センター）ら	E4 3年間にわたる土壌の乾燥がスギ成木の蒸散と成長に及ぼす影響：荒木真岳（国研 森林機構 森林総合研究所）ら	J4 中小規模地上設置型太陽光パネルの立地特性の把握：山梨県における事例：稲谷俊輔（東京農工大学）ら
14:00	D15 地上参照点は何点必要か—UAV画像を用いたSfM処理におけるGOPの有効性—高橋正義（国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所）ら	A25 アーバンディア対策の社会ネットワーク構造：八巻一成（森林総合研究所）ら	L3 森林内で捕獲したシカ個体運搬器材の開発：八代田千鶴（森林総合研究所関西支所）ら	調整・討論	調整・討論
14:15	調整・討論	調整・討論	調整・討論	E5 幼齢混交植栽人工林と物質生産機能—樹木多様性実験の結果から—：齋藤大（University of Freiburg）ら	J5 太平洋から紀伊山地への水蒸気輸送にともなう降水安定同位体比の変動：松尾泰輔（三重大学）ら
14:30	D16 森林管理のためのレーザーによるインテリジェントシステム：加藤顕（千葉大学）ら	A26 農山村における移住者支援を行う森林NPOの役割：平山智貴（九州大学）ら	L4 ナラ枯れにより枯死した古いコナラから羽化する甲虫相に影響をおよぼす要因：福田涼吾（東京大学大学院）ら	E6 トドマツ造林地間のミズナラの出現パターンの違い：中西敦史（森林総合研究所）ら	J6 δ-Dアイソグラムを用いた森林流域内の水移動に伴う安定同位体比の変動の解析：勝山正則（京都府立大学大学院）ら
14:45	D17 航空機LiDARによる単木樹種分類の汎用性の検討（Ⅲ）：グリッド幅の影響：林勇輝（名古屋大学）ら	A27 新型コロナウイルス感染症拡大期の山地・森林の利用・訪問状況に関する考察：内山倫太（名古屋大学）ら	L5 ナラ枯れ被害木の枯死から10年前後までの残存形態の変化：松浦崇通（富山県農林水産総合技術センター森林研究所）ら	E7 機械地帯えを行った再造林地におけるタノキの発生量と利用可能性：大矢信次郎（長野県林業総合センター）ら	J7 花崗岩山地源流域における基岩内地下水集水域と流出特性：正岡直也（京都大学）ら
15:00	D18 産学官連携によるスマート精密林業の現場実証：加藤正人（信州大学）ら	A28 都市化と森林再生の時代における政策指標としての主観的幸福度：高橋卓也（滋賀県立大学）ら	L6 カシノナガキクイムシの飛翔距離と環境因子との関連：藤原聖真（兵庫県立大学大学院）ら	E8 抜き伐り実施が行われたササを欠くヒノキ天然林の更新過程：杉田久志（富山県農林水産総合技術センター森林研究所）ら	J8 森林流域を対象とした分布型降雨流出モデルK-BLADEmodelの開発（Ⅱ）：亀山敏頭（東京大学大学院）ら
15:15	D19 広価値GNSSを用いたスマート測量システムの開発と測量精度の評価：高岸且（株式会社バスコ）ら	調整・討論	L7 カシノナガキクイムシの非寄主木樹幹への着地：山崎理正（京都大学）ら	調整・討論	調整・討論
15:30	D20 立木査定時におけるUAV利用可能性の検討：前田佳子（国際航空（株））ら		L8 ナラ枯れに防除法はないのか？：小林正秀（京都府森林技術センター）ら		J9 大起伏山地の流域における斜面と河道のピーク伝播速度：浅野友子（東京大学）ら
15:45	調整・討論		調整・討論		J10 現地データを用いたTDRによる浮遊砂濃度計測の検証：宮田秀介（京都大学）ら
16:00	D21 地上型レーザーキャナによる樹木サイズの測定誤差：多数の計測事例の分析：西園朋広（森林総合研究所）ら		L9 マツノキクイムシ寄生性線虫のマツノマダラカミキリへの寄生性の検討：小澤壮太（国立研究開発法人 森林研究・整備機構）ら		J11 土砂災害の引き金となる降雨の評価手法に関する研究：執印康裕（宇都宮大学）ら
16:15	D22 複数の森林型における森林3次元計測システムOWLの精度検証と今後の展望：笹川大河（筑波大学）ら		L10 マツノマダラカミキリの大量捕獲消長：江崎功二郎（石川県農林総合研究センター林業試験場）ら		
16:30	D23 全天球カメラで作成した点群を用いた立木解析：坪田和也（島根大学）ら		L11 地域～広域スケールでみるエゾハルゼミの生活史特性および遺伝構造：湯本景特（筑波大学大学院）ら		
16:45	D24 スマートフォンカメラを用いた広葉樹の立体モデル作成：中川真海（信州大学）ら		L12 Integrating intraspecific variation in species distribution models with the implication of climate change:張勝男（東京大学）ら		
17:00	調整・討論		調整・討論		
17:15					

研究発表題目（部門別口頭発表） 大会スケジュール 3月23日 午後 2/2

会場	Room 6	Room 7	Room 8	Room 9
開始時刻	風致・観光 2	教育	微生物	
13:00	B10 ダスマンの IUCN 保護地域管理カテゴリへの影響：伊藤太一（筑波大学）ら	C1 子どもの自然離れの実態と要因～地域環境と親子関係に着目して～：北村芽唯（秋田県立大学大学院）ら	M1 森林限界北上に寄与する菌根菌種の特定：宮本裕美子（北海道大学）ら	
13:15	B11 保護地域「協治」の理念的・実態的な意味：ボルネオ中央部の事例比較より：井上真（早稲田大学）ら	C2 奈良県の中高校生に向けた森林教育プログラムの実証的開発：奥芝理那（近畿大学大学院）ら	M2 樹幹注入処理は潜在感染木の発病を抑える：二井一禎（京都大学）ら	
13:30	B12 屋久島国立公園における山岳部利用のあり方に関する検討結果と今後の課題：土屋俊幸（一財）林業経済研究所）ら	C3 希少な野生動物植物種の密猟や盗採を防ぐ教育機会の創出と危険性：大島順子（琉球大学）ら	総合討論	
13:45	B13 観光資源の評価と誘客力に関する一考察：寺崎竜雄（公益財団法人日本交通公社）ら	C4 九州北部豪雨被災地における他出者を中心とした環境教育の展開と課題：市野瀬愛（九州大学大学院）ら		
14:00	調整・討論	調整・討論		
14:15	B14 コロナ禍で自然観光を志向する日本人旅行者の特性に関する基礎的考察：安原有紗（公益財団法人日本交通公社）ら	C5 林業大学校における教育プログラムの検討：小菅良豪（にちなん中国山地林業アカデミー）ら		
14:30	B15 「新しい日常における森林活用の意向調査」の概要について：田中伸彦（東海大学）ら	C6 森林科学科学生対象の体験ふりかえりワークショップの実践：比屋根留（岩手大学）ら		
14:45	B16 コロナ禍における登山観光：久保田賢次（筑波大学）ら	C7 森林科学科学生のライフヒストリー：藤原拓摩（岩手大学）ら		
15:00	B17 COVID-19 流行前後の阿蘇くじゅう国立公園の誘致圏と来訪者行動の特徴：久保暁子（東京大学大学院）ら	C8 国家公務員採用試験にみる専門職に求められる森林科学の内容：杉浦克明（日本大学）ら		
15:15	B18 新型コロナウイルス感染症（COVID-19）対策が富士山観光に及ぼす影響：藤野正也（福島大学）ら	調整・討論		
15:30	B19 COVID-19 流行前と期間中の自然観光地の混雑許容度の比較：金慧隣（北海道大学）ら	C9 歴史的資料による森林教育再考：大石康彦（森林総合研究所多摩森林科学園）ら		生理
15:45	B20 インドネシアの広場 alun-alun の Covid-19 拡大への対応状況に関する考察：小堀貴子（東京大学大学院）ら	C10 森林教育に関する認証制度：寺下太郎（愛媛大学大学院）ら		G1 遺伝子発現からみた病虫害複合被害時のカラマツの生理変化：和田尚之（地方独立行政法人北海道立総合研究機構森林研究本部林業試験場）ら
16:00		C11 SDGs の向こう側：中島皇（京都大学）ら		G2 ハンノキハムシの樹種選択における BVOCs（植物由来香気成分）の類似性：増井昇（北海道大学大学院農学院）ら
16:15				G3 開放系オゾン付加施設におけるヤマナラシ属二種の病虫害の季節変化：小池孝良（北海道大学）ら
16:30				G4 ブナ苗の成長と光合成に対するオゾン、土壌窒素添加および高濃度 CO ₂ の影響：渡辺誠（東京農工大学）ら
16:45				G5 ブナ葉のオルガネラ DNA コピー数の季節変化：斎藤秀之（北海道大学）ら
17:00				総合討論
17:15				

研究発表題目（ポスター発表 P-001 から P-061） 3月19日～23日

林政	風致・観光	教育	経営	
P-001 三重県南部地域の原木市売市場を利用する山主・買主の原木取引の現状と意向：石川智代（三重県林業研究所）ら	P-012 日常の森林浴の頻度と不眠症との関連：J-MICO Study 大幸研究：森田えみ（国立研究開発法人森林研究・整備機構）ら	P-020 安全な林業の実現には産学での基礎知識を履かなくてはならない：小山泰弘（長野県林業総合センター）ら	P-028 # 日本版 NFI と環境省 1/2.5 万植生図の比較（その2）：田中樹己（新潟大学大学院）ら	P-045 # 高解像度衛星画像と UAV 取得データを併用したスギ判別・見える化技術の開発：中村達樹（金沢工業大学）ら
P-002 # 近世多摩川上流域における木材生産流通コストの実態：若狭夏海（東京農工大学）ら	P-013 全天球パノラマ画像を用いた里山景観の定量評価：神宮翔真（早稲田大学）ら	P-021 高等学校の農業教育における科目「森林経営」の再検討：井上真理子（森林総合研究所）ら	P-029 # 土地被覆が斜面崩壊に与える影響：傾向スコアによる評価：西岡昌泰（九州大学大学院）ら	P-046 # リモートセンシングから得られる単木情報とスギ高齢人工林成長量の関係分析：吉井達樹（三重大学）ら
P-003 北東北三県における製材工場の素材在庫変動の分析：道中哲也（森林総合研究所）ら	P-014 ソーシャルメディア分析による日本の各国立公園の魅力の評価：柴田嶺（新潟大学）ら	P-022 鳥類音声種判別のためのオンライントレーニングツールの開発と有効性評価：小川結衣（国立環境研究所）ら	P-030 # 立地環境に基づく広葉樹の適地評価：山下淳也（京都府立大学）ら	P-047 # UAV を用いたブナ林の樹幹抽出における斜め画像の有効性：福月理央（新潟大学）ら
P-004 # 文化財修理報告書から見た寺社建築を構成する大径・長大部材の特徴：西原俊介（東京農工大学）ら	P-015 # 国立・国定公園総点検後の新規指定・拡充による重要生態系地域の保護：秋山リカ（北海道大学大学院）ら	P-023 # 林業大学校のカリキュラム編成と履修科目の考察：小川高広（名古屋大学）ら	P-031 # 大枝演習林における立地環境に基づくスギ・ヒノキの成長ポテンシャルの評価：向井花乃（京都府立大学）ら	P-048 # UAV 空撮画像を用いた落葉広葉樹林における樹種分類：吉田大智（新潟大学）ら
P-005 九州・四国地域の地方自治体による造林初期のシカ害対策補助事業の実施状況：志賀重（国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所）ら	P-016 # 世界の自然保護地域における入域料調査 日本での入域料導入に向けた考察：福島雅之（公立鳥取環境大学）ら	P-024 # 技術士（森林部門）試験から見る高度専門資格に求められる森林科学の内容：水井英美（日本大学）ら	P-032 # Relationship between growth performance of Teak and site characteristics in the Lao PDR: Simone VONGKHAMHO（名古屋大学）ら	P-049 # Forest type classification based on deep learning technique with archival aerial photography: 裴慧卿（東京大学）ら
P-006 # ニホンジカによる森林被害と政策～中国山地地域 5 県の比較～：伊藤太順（鳥取大学）ら	P-017 # モンタージュ写真を用いた国立公園の混雑感評価：現地と web 調査の比較：伊藤瑠海（北海道大学大学院）ら	P-025 大学における森林・林業関連学科の研究室の設置状況：田中千賀子（武蔵野美術大学）ら	P-033 # ヒノキ人工林における列状間伐が与える肥大成長及び樹冠成長特性の検討：館田一歩（宇都宮大学）ら	P-050 # 熟練者のノウハウを組み込んだ AI による広葉樹の樹種判別に付いた基礎検討：江澤一照（日本大学大学院）ら
P-007 # ジビエ利用と獣肉処理場の捕獲個体受入基準の現状 一近畿地方を中心に～：古賀達也（京都大学大学院）ら	P-018 # 地理空間情報を活用したトレイルランニング大会における環境負荷量の推定：中野研人（東京農業大学）ら	P-026 興味地点の解説サイン制作による生物多様性教育プログラム：倉本宣（明治大学）ら	P-034 # 中京地域における木材市場の変化：徐喬逸（東京大学）ら	P-051 # 空中写真を用いた福島県只見町沼ノ平地域における地形変動の把握（その2）：篠原朋恵（新潟大学）ら
P-008 明治前期の岩手県における鳥獣および内水面漁業資源の利用：泉桂子（岩手県立大学）ら	P-019 # 知床国立公園における車両規制の見直しに対して利用者が示した態度・行動：八尋聡（北海道大学大学院）ら	P-027 森と人とを紡ぎ直す方法論としての感性的アプローチの可能性：中村和彦（東京大学）ら	P-035 # 京都府と鹿児島県にみる竹林拡大対策の比較検討：陳田（東京大学）ら	P-052 # ケーブルカメラを用いた森林計測 - 異なる林相における単木検出率の比較 -：今枝大（名古屋大学）ら
P-009 福井県美浜町の入会林野の現状と課題：安達啓介（神戸学院大学）ら			P-036 # 林地残材のある人工林内のニホンジカの行動：野嶋健太郎（日本大学）ら	P-053 # 若齢針葉樹人工林における点群データを利用した単木抽出精度の評価：佐藤有規（宇都宮大学）ら
P-010 ベトナムの森林配分政策が高地の地域社会で起こす複合的な社会生態的動態：Schaefer Holger（京都大学）ら			P-037 # 重回帰分析からみた森林保険加入率の変動要因：加藤勲力（東京農業大学）ら	P-054 広葉樹二次林の成長予測：龍原哲（東京大学）ら
P-011 自治体林政における森林技術者の周流：山本伸幸（森林総研）ら			P-038 # 中国・神農架林区の森林管理組織：劉立航（東京大学）ら	P-055 東京大学富士郷の森研究所カラマツ系統別試験地の成長過程：石橋整司（東京大学）ら
			P-039 # 喫食を伴う森林レクリエーションにおける事故防止策：陸黎駿（東京大学）ら	P-056 長期観測データを用いたスギ単木枯死予測モデルの構築：福本桂子（国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所）ら
			P-040 # 森林散策におけるリラクゼーション効果を考慮した森林管理のあり方：歴園園（東京大学）ら	P-057 東京大学千葉演習林における天然林資源の現状：尾張敬章（東京大学）ら
			P-041 # 浮世絵に描かれた江戸の緑地環境：劉馨運（東京大学）ら	P-058 ミャンマ択伐林の林分動態～伐採後 5 年間の変化～：溝上展也（九州大学）ら
			P-042 # Forest cover changes obtained from satellite images in Guadalcanal, Solomon Islands: Chacha Trevor（三重大学）ら	P-059 大船山のミヤマキリシマ群落の保全・復元に向けた提言：大久保敏宏（早稲田大学）ら
			P-043 # Landsat 時系列衛星画像を用いた直接予測手法による森林変化の要因推定：西田圭佑（九州大学大学院）ら	P-060 木曾ひのき端材を活用した商品のインターネット販売：佐藤孝吉（東京農業大学）ら
			P-044 # 時系列 Landsat 画像を用いた豪雨に伴う斜面崩壊推定：寺田愛理（九州大学）ら	P-061 商品から見た竹材の特徴と管理方法：吉野聡（東京農業大学）ら

研究発表題目（ポスター発表 P-062 から P-146） 3月19日～23日

経営	造林	遺伝・育種
P-062 森林内における電波減衰の影響: 北原健太郎 (鹿児島大学大学院) ら	P-079 # 異なる環境制御化におけるスギ球果の成長とガス交換特性: 松下泰裕 (静岡大学大学院) ら	P-113 芽かき終了後の断幹がセグダンの樹冠形および幹の直径成長に与える影響: 横尾謙一郎 (熊本県林業研究・研修センター) ら
P-063 指紋認識技術を応用した丸太木口画像の個体識別: 佐保田万智子 (日本ユニシス株式会社) ら	P-080 # 新潟県苗場山の長期固定試験地におけるブナの肥大成長の変化: 小松亮 (静岡大学) ら	P-114 北海道のシラカンバ人工林における地位指数曲線の作成: 内山和子 (北海道立総合研究機構林業試験場) ら
P-064 リモートセンシングによる林分材積推定: 高橋與明 (森林総合研究所九州支所) ら	P-081 # タケカンバの産地試験林を用いた葉フェノロジーの産地間変異の評価: 佐藤温起 (静岡大学) ら	P-098 林地除草剤の散布におけるドローンと人力の作業効率の比較: 田中友梨 (鳥根県中山間地域研究センター) ら
P-065 林分材積推定における UAV-LIDAR データの有効性に関する検討: 光田晴 (宮崎大学) ら	P-082 # ススキ型および非ススキ型競合植生下におけるスギ特定母樹株中苗の成長: 中山葉月 (宮崎大学) ら	P-099 下刈り省略が植栽木の成長に与える影響: 中川宏治 (滋賀県琵琶湖環境科学研究所) ら
P-066 ポイントクラウドデータによる森林資源モニタリングの検討: 松英恵吾 (宇都宮大学) ら	P-083 # Comparison of seed dispersal patterns between 6 and 15 years after felling in sugi plantation: マニアガンリツサマリア (宮崎大学) ら	P-100 下刈り省略に対するスギ特定母樹系統間の初期成長反応の違い: 山岸輝 (宮崎大学) ら
P-067 地上レーザーと UAV データを用いた林冠高の推定: 齋藤英樹 (森林総合研究所) ら	P-084 # 静岡県「森の力再生事業」における人工林広葉樹林化の成否とその要因: 木下信 (静岡大学大学院) ら	P-101 下刈り省略下での特定母樹スギコンテナ中苗の4年間の成長と競合状態: 平田令子 (宮崎大学) ら
P-068 UAV 空撮による樹高推定精度に撮影高度が与える影響: 加治佐剛 (鹿児島大学) ら	P-085 # マツ枯れ被害林分の再生におけるソヨゴ伐採の効果: 柴田健士 (京都府立大学大学院) ら	P-102 下刈りを省略した造林地での雑草木の成長と競合状態: 山川博美 ((国研) 森林研究・整備機構 森林総合研究所) ら
P-069 ドローン空中写真を利用した林床植生高のマッピング-常緑針葉樹林の事例-: 栗屋善雄 (岐阜大学) ら	P-086 # 旧ブナ薪炭林における用材生産のための伐採が天然更新に与える影響: 和泉祐子 (新潟大学) ら	P-103 茨城県のスギ新植地における競合植生の成長量に影響する要因の推定: 五十嵐直也 (森林総合研究所) ら
P-070 撮影条件の差異が SfM 処理に与える影響の評価 (2): 山本一清 (名古屋大学) ら	P-087 スギ母樹へのグルタチオン施用が種子の品質に与える影響: 山下直子 ((国研) 森林研究・整備機構 森林総合研究所) ら	P-104 UAV 空撮画像と地上レーザーにより得られた雑草木高および群度情報の比較: 鶴崎幸 (福岡県農林業総合試験場) ら
P-071 米国南東部におけるデジタル航空写真を用いた DSM の精度評価: 小幡進午 (テネシー大学) ら	P-088 スギの選別種子によるコンテナ苗育苗における GSSG 施用の有無と成長: 奥田史郎 (森林総合研究所) ら	P-105 宮城県白石市の低密度植栽地におけるスギの10年間の成長: 酒井敦 (森林総合研究所) ら
P-072 Litchi を用いた UAV 空撮計画の作成方法: 村上拓彦 (新潟大学) ら	P-089 コンテナ苗における育苗方法の現状～全国の生産者へのアンケート調査より～: 小笠真由美 (森林総合研究所) ら	P-106 スギの若齢以降の樹高成長曲線に幼齡部分を追加する: 重水英年 (国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所) ら
P-073 広域森林バイオマス研究プラットフォーム 現場から衛星までを結んで: 尾鷹元 (森林総合研究所) ら	P-090 密度調整とソーティングがスギコンテナ苗の地上部と地下部の乾重量に及ぼす影響: 山中豪 (三重県林業研究所) ら	P-107 山梨県におけるヒノキの地位指数曲線の修正と直径成長に影響する要因の探索: 長谷川高平 (山梨県森林総合研究所) ら
P-074 人工衛星と AI 判読技術を用いた森林資源の広域モニタリングについて: 西本里美 (株式会社ハスコ) ら	P-091 植栽時の性状および植栽後の成長からみた“よい”スギ挿し木苗の育苗条件: 伊藤哲 (宮崎大学) ら	P-108 クリーンラターの植栽2年後の樹高に及ぼす苗木の形質と立地の影響: 原山尚徳 (国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所) ら
P-075 松枯れ感染木検出のための衛星画像による時系列解析: 内藤千尋 (国際航業株式会社) ら	P-092 春植栽したスギコンテナ苗の初期成長に及ぼす育苗時の追肥の影響: 飛田博順 (森林総研) ら	P-109 コウオウザンの植栽後2年間の成長特性: 高山勉 (兵庫県立農林水産技術総合センター) ら
P-076 衛星画像を用いた過去35年間の日本の伐採面積推定: 志水克人 (国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所) ら	P-093 元肥と播種時期がヒノキ実生コンテナ苗のサイズと得苗率に及ぼす影響: 成木靖和 (岐阜県森林研究所) ら	P-110 堆肥を用いて育成したヤナギ5種における2年目の成長: 香山雅純 (森林総合研究所) ら
P-077 航空 LIDAR データを用いた山間部における路網の自動抽出に関わる手法の検討: 大垣志織 (株式会社ハスコ) ら	P-094 育成方法が異なるヒノキ実生コンテナ苗の多点データによる活着と初期成長: 渡邊達仁 (岐阜県森林研究所) ら	P-111 さし付け時期の違いがオノエヤナギのさし木発根率および生存率に与える影響: 矢野慶介 (森林総合研究所 林木育種センター 東北育種場) ら
P-078 ALS データとタイルポリゴンを使用した路網バッファー別材積の推定: 塩田廣美 (京都府立大学大学院) ら	P-095 1年生カラマツコンテナ苗の植栽後の成長: 二本松裕太 (長野県林業総合センター) ら	P-112 オノエヤナギの超短伐期施業の関東域での可能性: 上村章 (森林総合研究所) ら
		P-129 ブナ林の樹冠発達が堅果生産量に及ぼす影響: 塚原雅美 (新潟県森林研究所) ら
		P-130 クロマツにおける RNA-Seq データからの高密度連鎖地図の作製: 平尾知士 (森林総合研究所 林木育種センター) ら
		P-131 # Comparison of Two Linkage Maps Between <i>Chamaecyparis obtusa</i> Sieb. et Zucc. and <i>Cryptomeria japonica</i> D. Don: DOGAN Guliz (新潟大学大学院) ら
		P-132 カラマツとグイマツの完全長 cDNA 配列の取得と種間比較: 三嶋賢太郎 (森林総合研究所 林木育種センター) ら
		P-133 空中さし木法によるスギさし木発根過程における遺伝子発現変動: 福田有樹 (国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所 林木育種センター九州育種場) ら
		P-134 アスナロ属葉組織における耐凍性関連遺伝子の発現解析: 福永路子 ((国研) 森林研究・整備機構 森林総合研究所 林木育種センター) ら
		P-135 サクラの生育不全実生で見られた防御関連遺伝子の高発現: 鶴田燃海 (森林研究・整備機構 森林総合研究所) ら
		P-136 熊本に残る屋久杉伝説の遺伝的検証: 金谷整一 (森林総合研究所九州支所) ら
		P-137 # Effects of warming on survival and growth of <i>Betula ermanii</i> revealed by range-wide transplant experiments: Aye Myat Myat Paing (東京大学) ら
		P-138 # 化石 DNA 解析にむけたツガ属における種間・種内識別に有用な DNA 領域の探索: 松江倫代 (千葉大学) ら
		P-139 母島鳥島産のオオバシマラサキにおけるエコタイプの分化と交雑: 鈴木節子 (森林総合研究所) ら
		P-140 # ライム病の原因菌と媒介者であるシクリツエマダニの遺伝的分化の解明: 塚本宝 (東京大学) ら
		P-141 # 分布境界におけるミネカエデ類の遺伝構造: 竹内虎輔 (東京大学) ら
		P-142 # 千葉県柏市に隔離分布するズミ集団の父性解析: 白岡菜々海 (東京大学大学院) ら
		P-143 # 多雪域植物ハイヌガヤの遺伝的多様性と進化過程の推定: 蔡惠美 (千葉大学) ら
		P-144 # 葉緑体 DNA を用いたシロヨモギの地理的変異の解析: 武田浩太 (新潟大学) ら
		P-145 サクラの栽培品種の形質に対するゲノムワイド関連解析: 加藤珠理 (森林総合研究所) ら
		P-146 # Genetic dissection of wood properties in hybrid larch using SNPs: 陳淑芬 (東京大学) ら

研究発表題目（ポスター発表 P-147 から P-213） 3月19日～23日

遺伝・育種	生理	生理	生理	植物生態
P-147 # 新たなスギ雄性不稔遺伝子の探索：釣崎恵里子（新潟大学）ら	P-164 西南日本の3地域におけるスギ英樹の植栽3年後の成長：三浦真弘（森林研究・整備機構 森林総合研究所 林木育種センター 関西育種場）ら	P-174 3 成長期間の土壌乾燥に対するスギ成木の応答 1：葉の水利用特性：井上裕太（森林総合研究所）ら	P-191 針葉樹の光合成機能解析 II - 光化学系 I サイクリック電子伝達反応の抑制 -：津山孝人（九州大学）ら	P-197 # 低木における種ごとの光資源の利用体制 受光構造と光合成特性からの評価：石橋和明（静岡大学）ら
P-148 # バルク DNA を用いた <i>MALE STERILITY 1</i> を持つ個体の低コストマーカー選抜：渡部大寛（新潟大学大学院）ら	P-165 スギエリートツリー人工交雑温室産種子由来コンテナ苗の検定林での初期成長：山野邊太郎（国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所 林木育種センター）ら	P-175 輸出用植木類の根幹部土壌除去後の保湿度材の違いが水分ストレスに及ぼす影響：高橋玄（千葉県農林総合研究センター）ら	P-192 針葉樹は広葉樹とは異なる光呼吸代謝をもつ：宮澤真一（森林総合研究所）ら	P-198 # カエデ属 3 種の個体成長に伴うシュート構造と資源配分比の変化：藤岡薫子（東京大学）ら
P-149 スギ雄性不稔の原因遺伝子である <i>MS1</i> のハプロタイプ多様性解析：長谷川陽一（森林総合研究所）ら	P-166 ドロノキさし木苗における3年間の成長のクローン間変異：生方正俊（国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所）ら	P-176 相対湿度制御下での赤外分光法による高木スギ葉横断面への水吸着：東若菜（神戸大学）ら	P-193 Genetic variation in photosynthetic pigments among diverse origins of <i>Cryptomeria japonica</i> grown in common gardens: 韓慶民（森林研究・整備機構）ら	P-199 # 航空機 LiDAR による葉群三次元分布の把握 - 落葉広葉樹林の事例 -：荒木一穂（岐阜大学）ら
P-150 関西育種基本区で開発したスギ少花粉品種の若齢時における雄花着生性の評価：宮下久哉（国立研究開発法人森林研究・整備機構）ら	P-167 トドマツ雄花当たり花粉量にみられるクローン間変異：加藤一隆（森林総合研究所 林木育種センター 北海道育種場）ら	P-177 # 無道管被子植物ヤマグルマの生理生態特性 - 冷温帯構成樹種 5 種との比較 -：和田智弘（岐阜大学）ら	P-194 低 Ca 濃度下で Al が熱帯フトモモ科樹木の根の伸長に及ぼす影響：山ノ下卓（東京大学）ら	P-200 # Crown structure explains the discrepancy between UAV- and ground-based leaf phenology at the individual tree level: BUDIANTINI Noviana (Shizuoka University) ら
P-151 花粉アレルゲン採取を目的とした多花粉・高アレルゲン性スギ品種の選抜：齋藤真由（富山県農林水産総合技術センター 森林研究所）ら	P-168 地上 LiDAR 再計測による試験林の成長モニタリングと樹幹形状解析：平岡裕一郎（静岡県立農林環境専門職大学）ら	P-178 # 落葉広葉樹の樹幹水分動態の季節変化：和泉健太（京都府立大学大学院）ら	P-195 アルミニウム耐性樹木ユーカリが含む加水分解性タンニンの網羅的解析：田原恒（国立研究開発法人森林研究・整備機構）ら	P-201 # 二次遷移に伴う樹木間光獲得競争と森林構造の変化：冷温帯と暖温帯の比較：松尾智成 (Wageningen University & Research) ら
P-152 スギ閉鎖系採種圃における2つの異なる花粉散布機による種子生産の比較：伊藤由紀子（新潟県）ら	P-169 UAV によるスギ若齢木の樹幹形状計測と系統間差の解析：武津英太郎（国立研究開発法人 森林研究・整備機構）ら	P-179 # 温帯性および亜熱帯性ササ類の水核活性物質の探索：久保光（東京大学大学院）ら	P-196 カラマツにおけるカリウムチャネル遺伝子の単離および解析：細尾佳宏（信州大学）ら	P-202 # 狭山丘陵における長期間放棄された二次林の林分構造：三木友貴（早稲田大学）ら
P-153 エリートツリーミニチュア採種圃における外部花粉の低減：西原寿明（愛媛県農林水産研究所）ら	P-170 UAV 空撮画像を利用したグイマツとグイマツ雑種 F ₁ の黄葉フェノロジーの比較：福田陽子（森林総合研究所 林木育種センター 北海道育種場）ら	P-180 # 水ストレスに対するヒノキの花成応答：兼松史宏（岐阜大学）ら		P-203 # 遷移後期の照葉樹林に隣接する天然生二次林における15年間の植生動態：川田直人（神戸大学大学院）ら
P-154 BAP を含有する農薬を用いたカラマツ雌花の着生促進：吉本拓也（広島県立総合技術研究所 林業技術センター）ら	P-171 複数検定林における RTK-GNSS を用いた苗木個体配置図の作成：松永孝治（森林総合研究所 林木育種センター 九州育種場）ら	P-181 カラマツの FT/TFL-like 遺伝子の部分塩基配列の決定とその発現特性：中島剛（地方独立行政法人青森県産業技術センター 林業研究所）ら		P-204 # 世界遺産白神山地ブナ林の20年間の動態と構造の変化：板橋朋洋（秋田県立大学）ら
P-155 スギの人工交配に適する花粉増量剤の検討：宮下智弘（山形県森林研究センター）ら	P-172 # スギにおける不定胚形成過程が花粉親寄与率に及ぼす影響：金枝拓実（新潟大学）ら	P-182 # カラマツの花芽分化と長枝形成の関係：馬場俊希（北海道大学）ら		P-205 # 蘇苔類が佐渡島のスギ天然林の樹木更新に与える影響：久保田美理（新潟大学）ら
P-156 クマノザクラの種子の保存と発芽に関する考察：藤本俊雄（森林総合研究所）ら	P-173 ヒバ葉条からの多芽体形成と増殖細胞の誘導・プロトプラストの単離：細井佳久（森林総合研究所）ら	P-183 ブナとシロイヌナズナにおける FT プロモーターの比較解析：赤田辰治（弘前大学）ら		P-206 # 暖温帯二次林における実生群集の動態：環境要因と形態特徴からの検討：策勒格爾（名古屋大学）ら
P-157 空中さし木法を用いた不定根形成に必要な環境要因の解析：栗田学（森林総合研究所 林木育種センター 九州育種場）ら		P-184 ポプラの花成抑制遺伝子をゲノム編集した影響：西口満（森林総合研究所）ら		P-207 # 76 年生落葉広葉樹林における伐採後3年間の実生による更新：前田紹吾（岡山大学大学院）ら
P-158 採種木およびコンテナ苗由来のスギさし種の重量が発根に及ぼす影響：大平峰子（森林研究・整備機構 森林総合研究所 林木育種センター）ら		P-185 # 葉緑素濃度の季節変化に現れるエビゲノムを介したストレス後遺症の可能性：岡崎裕平（北海道大学）ら		P-208 # ヒノキ林分内における細根の成長：枯死フェノロジーの空間変動性：藤井黎（京都大学）ら
P-159 クリーナーチ（グイマツ雑種 F ₁ ）コンテナ育苗におけるグルタチオン施用例：成田あゆ（地方独立行政法人北海道立総合研究機構）ら		P-186 アカエゾマツの個葉と枝レベルで推定した NDVI とクロロフィル濃度の関係：玉城聡（森林総合研究所）ら		P-209 # 冷温帯落葉広葉樹林の細根動態からみた生産性と安定性に対する多様性効果：唐澤拓朗（静岡大学大学院）ら
P-160 高 CO ₂ 施肥による苗木の成長促進効果：田村明（森林総合研究所 林木育種センター）ら		P-187 スギとコウヨウザンのシュートにおける最大光合成速度の比較：作田耕太郎（九州大学）ら		P-210 # 奥多摩地域の二次林における木本性つる植物の群集構造と分布特性：仲田郁実（東京農業大学）ら
P-161 アカマツ精英樹人工交配家系におけるマツノサイセンチュウ抵抗性：井城泰一（国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所 林木育種センター 東北育種場）ら		P-188 ブナの幹の異なる高さにおける光利用効率とガス交換：楢本正明（静岡大学）ら		P-211 # 年輪から見た三宅島 2000 年噴火がタブノキに与えた影響とその空間分布：木村祐貴（筑波大学大学院）ら
P-162 抵抗性アカマツ採種圃種苗の抵抗性における母樹の性能と交配組合せの効果：岩泉正和（森林研究・整備機構）ら		P-189 # ブナとヒメジャラ若木の樹体 CO ₂ フラックスの比較：齋藤彼方（静岡大学）ら		P-212 # 沼ノ平地すべり地域における植生の多様性：松浦隆介（新潟大学）ら
P-163 グイマツ雑種 F ₁ 優良系統の材質に対する植栽密度の影響：花岡創（森林総合研究所 林木育種センター 北海道育種場）ら		P-190 コナラの炭素輸送と成長特性：高梨聡（森林総合研究所）ら		P-213 # メジロ体内における種子体内滞留時間に対する種子サイズの影響：平尾多聞（宮崎大学）ら

研究発表題目（ポスター発表 P-214 から P-290） 3月19日～23日

植物生態	立地	防災・水文
P-214 # 花粉DNAメタバーコーディングによるシカ食害下の送粉ネットワークの解明：吉田拓矢（東京大学大学院）ら	P-231 # スギ人工林における林内雨が土層へのセシウム137の下方浸透に及ぼす影響：飯田光（筑波大学）ら	P-248 福島県スギ林における植物根中 ¹³⁷ Cs濃度の深度別時間変化：井口啓（筑波大学）ら
P-215 # 大気窒素沈着量増加と下層植生衰退に対する樹木蒸散の応答：長野菜穂（九州大学大学院）ら	P-232 # きのこのセシウム濃度と土壌の交換性カリウム濃度の関係—3年間の調査：鈴木也実（日本大学大学院）ら	P-249 食品検査データを用いた山菜の放射性セシウム濃度特性の解析：小松雅史（森林総合研究所）ら
P-216 # 異なる標高に分布する針葉樹人工林を対象とした土壌呼吸特性：重藤皓一（静岡大学大学院）ら	P-233 # 北海道東部の森林における初冬および初春の酵素活性に対する根圏効果：中山理智（京都大学）ら	P-250 可搬型検査装置により測定したほだ木からシイタケへの放射性セシウムの移行：金田一美有（茨城県林業技術センター）ら
P-217 # カナダ北西準州のクロトウにおける枝と幹の伸長量と肥大量の乾燥応答：田邊智子（京都大学）ら	P-234 # 愛知海上の森における地質の違いがヒノキ林の成長と表層土壌に与える影響：秋山哲矢（名古屋大学）ら	P-251 福島県放射性セシウム汚染森林に生息するゾロウグモの被ばく線量評価：綾部慈子（公益財団法人環境科学技術研究所）ら
P-218 # 約1世紀ぶりに日本各地で一斉開花期を迎えたタケ類ハチクの繁殖戦略：小林慧人（京都大学）ら	P-235 # ヒノキ人工林における根呼吸および従属栄養呼吸：武居玄（信州大学大学院）ら	P-252 セシウム137の濃度およびインベントリーデータベース構築：橋本昌司（森林総研）ら
P-219 # 大阪府和泉葛城山におけるフナノ開花結実特性：木田和泉（大阪府立大学）ら	P-236 # 関東平野の管理された都市林における炭素現存量の調査と炭素動態の推定：王郭超（明治大学大学院）ら	P-253 木質燃焼灰施用後4年間にわたるスギ新植林分の土壌化学性の変化：山田毅（国立研究開発法人 森林研究・整備機構）ら
P-220 小笠原諸島における森林生態系修復業務に伴うドローンの活用：瀬戸智大（一般社団法人 日本森林技術協会）ら	P-237 # カラマツ人工林における葉面積指数およびクランピングファクターの年変動：小枝慧子（信州大学）ら	P-254 緩効化処理を施した木質燃焼灰散布後のスギ植林地土壌化学性の変化について：佐野哲也（東北工業大学）ら
P-221 ベルー山岳地域における森林火災の発生動向について：佐藤保（森林研究・整備機構 森林総合研究所）ら	P-238 # Seasonal dynamics of carbon allocation between different organs in <i>Phyllostachys edulis</i> (Moso bamboo) forests: Wang Shiteng (京都大学) ら	P-255 永久しおれ点の体積含水率の簡易推定手法の検討：釣田竜也（森林総合研究所）ら
P-222 攪乱履歴の異なるマレーシア熱帯山地林における林分構造の違いに関する考察：伊尾木慶子（武蔵野大学）ら	P-239 コナラ当年枝の放射性セシウム濃度の季節変動：坂下渉（国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所）ら	P-256 デジタル地形データを用いた西日本の土壌型を規定する地形要因の解析：福垣昌宏（(国研) 森林研究・整備機構）ら
P-223 朽木・落葉広葉樹二次林におけるナラ枯れ、マツ枯れ、シカ食害と植生動態：龍谷泰行（滋賀県立大学）ら	P-240 福島原発事故の影響を受けたフナ類大径木の放射性セシウム分布：中島芳（宇都宮大学）ら	P-257 リター層と土壌層における細菌の群集と機能の小集水域スケールの空間分布：執行宣彦（国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所）ら
P-224 田島ヶ原サクラソウ自生地にもみられる5年間の植生変化：岡田暹（埼玉大学）ら	P-241 放射性セシウム吸収の樹種間差—植栽木等多点調査から：三浦覚（森林総合研究所）ら	P-258 コウヨウザン人工林における3年間の表土移動量：渡辺靖崇（広島県立総合技術研究所林業技術センター）ら
P-225 ヒノキ人工林における間伐が根圏動態に与える影響：仲畑了（京都大学）ら	P-242 クスギ植栽地におけるカリウム施用等土壌処理と植栽苗の放射性セシウム吸収：益守真也（東京大学）ら	P-259 モウソウチクの葉から抽出した植物ケイ酸体の粗度分布分析手法の検討：梅村光俊（国立研究開発法人 森林研究・整備機構）ら
P-226 群林間伐後のヒノキ林分における雄花生産の16年間の変動：中西麻美（京都大学）ら	P-243 ¹³⁷ Cs添加前後および同時のK処理がスギ苗の ¹³⁷ Cs吸収に及ぼす影響：関本均（宇都宮大学）ら	P-260 ティバッグの分解にメッシュサイズと土壌含水率が与える影響：森大善（森林総合研究所九州支所）ら
P-227 強光ストレス下における樹木の色素含有量の変化と光阻害耐性の多様性比較：辻祥子（京都大学大学院 生命科学研究所）ら	P-244 ヒノキ植栽木の放射性セシウム吸収に対するカリウム施肥と施肥中止の影響：平井敬三（国立研究開発法人 森林研究・整備機構）ら	P-261 連年施肥がウダイカンバとトマトの葉の窒素安定同位体比におよぼす影響：長倉洋子（国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所）ら
P-228 木本性つる植物のクローン成長プロセスは種によって異なるか？：森英樹（森林総合研究所）ら	P-245 里山での除染の有無が分解に伴う落葉中の放射性Cs濃度・量に及ぼす影響：市川貴大（くまの里山応援団）ら	P-262 モンゴル森林ステップの森林と草原に生育する木本種の炭素・窒素同位体比：小田あゆみ（信州大学）ら
P-229 分布拡大している先駆樹木アオモンの遺伝構造：川口英之（島根大学）ら	P-246 浜畔域におけるセシウム137の沈着量と生葉中濃度との関係：金指努（福島大学）ら	P-263 台風による被害率の違いがその後の枯死率に与える影響：清口康子（(国研) 森林研究・整備機構 森林総合研究所）ら
P-230 # 福島県北部の森林における放射性セシウムの流出機構に関する研究：川井拓哉（京都大学大学院）ら	P-247 スギ林における放射性セシウムの分布に及ぼす地形の影響：篠宮佳樹（国立研究開発法人 森林研究・整備機構）ら	P-264 高齢人工林と再造林地の増加が日本の森林土壌炭素収支に及ぼす影響：酒井寿夫（国立研究開発法人 森林研究・整備機構）ら
		P-274 降雨中における森林からの微水滴輸送：北村兼三（森林総合研究所九州支所）ら
		P-275 2種類のスギ高密度林分における樹冠遮断・樹冠通過雨・樹幹流の測定：村上茂樹（森林総合研究所）ら
		P-276 ヒノキ人工林30%間伐後3年間の林内雨量の経過：細田育広（国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所関西支所）ら
		P-277 根群質量法による樹液流計測法の検証：飯田真一（国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所）ら
		P-278 若齢・壮齢・高齢ポンドロサイレン林における干ばつが蒸散に及ぼす影響：鶴田健二（滋賀県琵琶湖環境科学研究センター）ら
		P-279 Cumm age impact on transpiration estimates in a Moso bamboo forest, central Taiwan: 久米朋直（九州大学）ら
		P-280 年輪セルロースの炭素同位体比から年蒸散量を復元する試み：久保田多余子（森林総合研究所）ら
		P-281 # 広域森林水循環評価に向けたLiDARデータによる立木密度推定手法の構築：猪越翔大（東京農工大学大学院農学府）ら
		P-282 # 森林施肥が衛星画像のNDVIに与える影響—蒸散評価に向けて—：深江朋美（宮崎大学）ら
		P-283 冷温帯落葉広葉樹林における熱フラックスの長期モニタリング：小坂泉（日本大学）ら
		P-284 低温期における森林の揮発性有機化合物濃度の上昇要因：深山貴文（森林総合研究所）ら
		P-285 # 冷温帯落葉広葉樹林における夏季のCO ₂ 交換量と気温の関係：大庭流雅（日本大学大学院）ら
		P-286 # 沖繩の亜熱帯常緑広葉樹林における炭素収支の変動について：大上進士（琉球大学）ら
		P-287 Predicting soil water retention using soil chemical properties: 藤井一（森林総研）ら
		P-288 降水量の異なる2時期の裸地斜面の土壌水分の挙動：平岡真合力（国立研究開発法人土壌研究所）ら
		P-289 森林伐採による斜面表層水分の降雨応答の変化観測：浅野志穂（(国研) 森林研究・整備機構 森林総合研究所）ら
		P-290 阿蘇地域の様々な植生における土壌の透水性・保水性の評価：松本一穂（琉球大学）ら

研究発表題目（ポスター発表 P-291 から P-361） 3月19日～23日

防災・水文	利用	利用	動物・昆虫	
P-291 # 森林土壌の孔隙構造の違いが抽出水の酸素・酸素安定同位体比に及ぼす影響：中野晴太（京都府立大学）ら	P-308 瑞穂山山麓の森林斜面における土壌侵食の実態と要因について：廣瀬満（山梨県森林総合研究所）ら	P-325 詳細地情報を用いた施業地検討用アプリケーションの開発：白澤結明（森林総合研究所）ら	P-338 # 東京都の都市緑地で発生しているナラ枯れの空間的分布：加藤俊奈（東京農工大学）ら	P-355 ピットフォールトラップによるオサムシ類の捕獲効率と個体数の推定：山中聡（森林総合研究所）ら
P-292 山地斜面における土層中の封入空気形成と林内雨の関係について：若上翔（森林総合研究所）ら	P-309 # 北海道胆振東部地震による崩壊土層の物理的特性：鈴木毅汰（石川県立大学）ら	P-326 # 全国の各市区町村における木質バイオマス利用可能量の推計：千田暹斗（東北大学）ら	P-339 # <i>Trypodendron niponicum</i> の発生消長と共生菌：三木尚輝（名古屋大学）ら	P-356 マレーシアにおける枯死木による炭素蓄積と生物多様性維持の相乗便益：山下聡（森林総合研究所）ら
P-293 渓流水源に依存する小規模水わさび田の水温変化：竹内真一（東海大学）ら	P-310 北海道胆振東部地震で崩壊した斜面の粘土鉱物組成：勝見尚也（石川県立大学）ら	P-327 シカ等侵入防護網の高検自動化に向けたIoTシステムの実証事業：井内正直（アイオーネイテャーボ株式会社）ら	P-340 # 埋立造成緑地に大量蓄積したハナムグリ垂科幼虫の分解と土壌への影響：前田健蔵（東京農工大学）ら	P-357 ウダイカンバの餌としての葉質は樹木の成長段階によってどう変化する？：松木佐和子（岩手大学）ら
P-294 # 森林流域における湧水・渓流水NO ₃ -N濃度形成への脱窒の影響とその地点間比較：白井峻太（京都大学大学院）ら	P-311 斜面規模の異なる地すべりの安定性に及ぼす積雪層の影響評価：岡本隆（国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所）ら	P-328 インスタンスセグメンテーションによるロバストな材検出手法：有水賢吾（国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所）ら	P-341 # プナ開業時期の変異がプナカイガラタマバエのゴール形成数に及ぼす影響：野中佳祐（京都大学大学院）ら	P-358 タヌキのため糞における実生の生存率に影響する要因：小池伸介（東京農工大）ら
P-295 # 森林流域における渓流水高頻度電気伝導度データの分解によるイオン動態比較：柴田夏希（京都府立大学）ら	P-312 積雪変質モデルを用いた雪崩発生確率の温暖化影響評価の試み：勝山祐太（森林総合研究所）ら	P-329 森林作業道の土構造による横断排水の機能評価：和多田友宏（岐阜県森林研究所）ら	P-342 # 森林において同所的に生息する中型食肉類の日周性と生息地選択の解明：森川周（東京大学）ら	P-359 ソリシエーターがスギ苗木植栽後5年間の食害防止効果と成長に及ぼす影響：大橋幸博（岐阜県森林研究所）ら
P-296 # 水抽出方法の違いによる土壌中窒素安定同位体比を用いた脱窒進行程度比較：高橋悠太朗（京都府立大学）ら	P-313 # 地形分析に基づく流木発生リスクの評価手法の検討：田中裕貴（京都府立大学）ら	P-330 植栽作業時における苗木人力運搬の作業効率：猪俣雄太（森林総合研究所）ら	P-343 # 北海道の人工林の鳥類群集：気候と季節によって異なる林齢と混交率の影響：河村和洋（北海道大学）ら	P-360 ニホンジカの効率的捕獲とその効果検証：柳澤賢一（長野県森林総合センター）ら
P-297 森林斜面における地下水挙動と実雨量の対応関係：小杉賢一朗（京都大学）ら	P-314 流木災害調査へのUAVの活用と課題：令和2年7月豪雨の事例：小柳賢太（国立研究開発法人土研研究所）ら	P-331 竹林内の環境色彩分布：松村哲也（信州豊南短期大学・東京大学）ら	P-344 # ギャップ構造を持つヒノキ人工林における広葉樹種子の鳥散布ネットワーク：高野賢（静岡大学大学院）ら	P-361 マーケティング分析手法を用いたニホンジカ研究戦略の整理の検討：林耕太（山梨県森林総合研究所）ら
P-298 # 花崗岩山地におけるストロンチウム同位体比を用いた基岩内地下水動態の解明：滝澤遼（京都府立大学）ら	P-315 UAVを用いた針葉樹林および広葉樹林で発生した流木の長さ移動性の比較：経隆悠（国研）森林研究・整備機構森林総合研究所）ら	P-332 ウォークスルー式3Dレーザー計測機を用いた森林計測の検証：大地純平（山梨県森林総合研究所）ら	P-345 # オオタカ繁殖地は木本植物多様性の指標になる：都市生態系における実証研究：夏川遼生（横浜国立大学大学院）ら	
P-299 # HYCYモデルを用いた堆積岩山地における降雨流出特性の解明：福岡諒（京都大学）ら	P-316 土石流中の流木の挙動に及ぼす土砂濃度の影響に関する数値解析的検討：鈴木拓郎（国研）森林研究・整備機構）ら	P-333 森林作業道災害リスク評価参考図の検証：白田寿生（岐阜県森林研究所）ら	P-346 # LIDARを用いて定量化した森林垂直構造とコウモリ類各種の活動量の関係：三宮望（東京大学大学院）ら	
P-300 山地上流域河川における豪雨時の流量観測：山川陽祐（筑波大学）ら	P-317 # 山地河川における流木ダムの分布とその量の把握：九州北部豪雨の事例：宮崎仁（東京農工大学）ら	P-334 # 皆伐地における森林作業道の実態把握：生駒直（岩手大学）ら	P-347 # 竹林拡大が小河川内の落葉分解と水生大型無脊椎動物に及ぼす影響：佐藤駿（石川県立大学）ら	
P-301 # 森林内外における消雪日の違いが融雪流出に及ぼす影響：平田智道（石川県立大学大学院）ら	P-318 室内燃焼実験によるスギ落葉の延焼速度の計測：吉藤奈津子（国研）森林研究・整備機構）ら	P-335 # スギ原木の木口から得られる情報と強度の関係：植田小晴（京都府立大学大学院）ら	P-348 接着材を用いたクビアカツヤカミキリ羽化成虫に対する防除の可能性：滝久智（森林総合研究所）ら	
P-302 定山溪長期森林水試験地における月流出量の長期的な傾向に関する研究：澤野真治（国研）森林研究・整備機構森林総合研究所）ら	P-319 スギ根引抵抗抗力の経年変化と引き出し実験：岡田康彦（森林研究・整備機構森林総合研究所）ら	P-336 # 刈払い機の連続使用による振動：安藤寛人（東京農工大学）ら	P-349 異なる誘引トラップによるクビアカツヤカミキリ成虫捕獲の比較：松本剛史（国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所）ら	
P-303 施業履歴の異なるヒノキ林の2流域における流出量等の比較－2020年夏期－：久田善純（岐阜県森林研究所）ら	P-320 静電容量による樹木根量の推定：萩野裕森（森林総合研究所）ら	P-337 苗木の植付位置への誘導および位置登録装置の開発とその作業効率：佐々木達也（森林総合研究所）ら	P-350 薬量やシート破損状況が異なる松置登録装置の開発とその作業効率：川口エリ子（鹿児島県森林技術総合センター）ら	
P-304 開設年の異なる2つの作業道における間伐後3年間の湧水流出量の推移：阿部俊夫（森林総研）ら	P-321 野外風荷重の動的計測：宮下彩奈（森林総合研究所）ら		P-351 高知県鹿取山のシイ・カン類に生じたフナ科樹木萎凋病による枯死の発生経過：佐藤重穂（森林総合研究所）ら	
P-305 作業道開設を伴う間伐における作業道および間伐斜面からの湧水流出：延廣電彦（森林総合研究所 東北支所）ら	P-322 風由来の環境ストレスを踏まえた海岸林の樹高成長履歴：南光一樹（国立研究開発法人森林研究・整備機構）ら		P-352 カシノナガキクイムシの過冷却点の地域変異：北島博（森林総合研究所）ら	
P-306 Characteristics of widespread landslides triggered by extreme rainfall in Japan: むていばあずりむ。（国研）森林研究・整備機構 森林総合研究所）ら	P-323 # 海岸林における付着塩分量の時間変化及びそのモデル化：宮崎拓馬（宮崎大学）ら		P-353 カシノナガキクイムシの飛翔行動におけるエッジ効果：衣浦晴生（森林総合研究所）ら	
P-307 # GeoWEPPを用いた森林流域内の土砂生産量分布と土砂流出の評価：裴靖（東京大学大学院）ら	P-324 防災と林業とを共存させる森林調査の一提案：田中賢治（国土防災技術株式会社）ら		P-354 ナラ枯れ発生前後における養菌性キクイムシ群集構造の比較：伊藤昌明（（地独）青森県産業技術センター林業研究所）ら	

研究発表題目（ポスター発表 P-362 から P-411） 3月19日～23日

微生物	特用林産	T4. 森林におけるシカ問題の解決に向けて	T5. 樹木根の成長と機能
P-362 # クロマトンにおける外生菌根菌の菌糸成長と子実体形成の季節変化：居駒すみれ（日本大学）ら	P-379 ヨシエナガキクイムシ随伴菌の多様性：升屋真人（(国研) 森林研究・整備機構・森林総合研究所）ら	P-396 クリーンルームでの環境管理や根切り処理によるマツタケ菌根苗のシロ拡大：小林久泰（茨城県林業技術センター）ら	P-404 高齢ノキ人工林における植栽木と他樹種の細根生産：宮本和樹（国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所）ら
P-363 # 管理形態の異なる広葉樹二次林における外生菌根菌群集：山寺豊海（東京農業大学）ら	P-380 サワラ人工林における腐朽病害木と健全木の環境マイクロバイオームの違い：平尾総秀（東京大学）ら	P-397 林地散布に適したマツタケ胞子の発芽促進処理法の検討：藤田徹（京都府農林水産技術センター）ら	P-405 # ヒノキ細根は細根系のどの位置でどれくらい脱落するのか？：吉田敏（名古屋大学大学院）ら
P-364 # カラマツ人工林の成木および実生における土壌深度別外生菌根菌種組成：大山和也（東京農業大学）ら	P-381 # 本州中部のスギ細根から検出したアーキアの群集構造：峰太一郎（三重大学大学院）ら	P-398 収穫後シイタケ内部の酸化酵素活性に及ぼす変色を抑制する保存処理の影響：上辻久敏（岐阜県森林研究所）ら	P-406 # 異なる滞水期間に対するクロマトン苗の応答特性—細根成長と蒸散速度—：藤田早紀（東京大学）ら
P-365 # 無菌条件下における外生菌根菌の複数接種種がアカマツ実生に与える影響：加藤伸久（東京農業大学）ら	P-382 # <i>Euwallacea</i> spp. が随伴する <i>Fusarium</i> 属菌のデイトとマンゴーへの影響：石田真結子（神戸大学）ら	P-399 薬用樹木カガズラの組織培養に増殖法の改良：小長谷賢一（(国研) 森林研究・整備機構）ら	P-407 # 針葉樹4種における細根系の水透過性と根特性の関係性の解明：増本泰河（信州大学）ら
P-366 # Arbuscular mycorrhiza fungal biomarkers associated with Japanese cedar and Japanese cypress:DJOTANAKotchiffor Kevin Geoffroy (The University of Tokyo) ら	P-383 # 薬剤を用いた木質残渣中に残存するナラタケモドキの防除：目黒友佳子（日本大学）ら	P-400 ウルシ種子の播種後1年4ヶ月間の発芽推移：土屋慧（地方独立行政法人青森県産業技術センター林業研究所）ら	P-408 # 細根バイオマス傾斜を持つ森林間での土壌の有機炭素複合体存在比の比較：林亮太（名古屋大学）ら
P-367 # 口永良部島火山泥流土における菌根感染源の分布：石川陽（東京大学大学院）ら	P-384 # 天然林における暗色雪腐病菌の集団遺伝構造：岩切鮎佳（東京大学大学院）ら		P-409 # カラマツのシュートと細根のフェロロジンは同期するのか？：田村祥（信州大学大学院）ら
P-368 ヤクナネショウロ埋土胞子の宿主選好性：村田政穂（東京大学）ら	P-385 ホルトノキ等へのファイトプラズマ感染率の九州と琉球諸島の比較：亀山統一（琉球大学）ら		P-410 # SMを使用した樹木根系構造の三次元再構成と形態計測：岡本祐樹（兵庫県立大学）ら
P-369 Communities of mycorrhizal fungi in different trophic types of Asiatic <i>Pyrola japonica sensu lato</i> (Ericaceae)：松田陽介（三重大学大学院）ら	P-386 サクラ類ふくろ実病について：長谷川絵里（森林総合研究所多摩森林科学園）ら		P-411 # スギ・ヒノキ細根系の次数別形態特性の比較：土居龍成（名古屋大学大学院）ら
P-370 Symbiotic fungi of <i>Euwallacea fornicatus</i> (Polyphagous Shot Hole Borer) infesting mango trees in Okinawa main island: 姜自如（名古屋大学）ら	P-387 ナラ枯れ初発地の被害状況：高橋由紀子（国立研究開発法人森林研究・整備機構）ら		
P-371 <i>Hymenoscyphus fraxineus</i> とトネリコ風植物との宿主-寄生者相互関係：岡根泉（筑波大学）ら	P-388 サクラ類こぶ病に対する抵抗性を光で誘導するための最適条件の検討：石原誠（森林総合研究所）ら		
P-372 Regional-scale analysis of rhizosphere bacterial community in <i>Cryptomeria japonica</i> plantations: 小長谷啓介（森林総合研究所）ら	P-389 スギ雄花上で黒点病菌と共存する菌類群集：松村愛美（森林総合研究所）ら		
P-373 # Regional and tissue-specific variation in endophytic fungi of tea plant (<i>Gamellia sinensis</i>): WinPhyu Mar (The University of Tokyo) ら	P-390 サワラ高齢級林分における溝腐の発生状況と患部の菌類相の解析：原口竜成（東京大学）ら		
P-374 # 植生衰退が土壌微生物機能の増進を介して実生更新に及ぼす履歴効果の解明：谷川鴻介（東京大学大学院）ら	P-391 スギ樹幹内部における非赤枯性溝腐病の病原菌の存在状況：岩澤勝巳（千葉県農林総合研究センター）ら		
P-375 # ヌメリグチの菌根圏から分離された放線菌が菌根菌の菌糸成長に及ぼす影響：小川進（東京大学）ら	P-392 岐阜県のヒノキ人工林における根株腐朽部から分離された木材腐朽菌について：片桐奈々（岐阜県森林研究所）ら		
P-376 # アカマツ根圏における細胞外トランプ (RETs) の可視化：白川誠（東京大学大学院）ら	P-393 国内におけるチャアナタケモドキと <i>Fomitiporia punctata</i> の分布様式：鳥居正人（森林総合研究所）ら		
P-377 # イワダレゴケ茎葉体のシアバクテリア着生及び窒素固定量の年齢傾向：原巳美子（東京大学大学院）ら	P-394 シイタケホダ木における真菌バイオマスと分解呼吸速度の季節変化：上村真由子（日本大学）ら		
P-378 伊吹山の異なる標高に生息する土壌線虫群集の形態学的および DNA メタ解析：北上雄大（三重大学）ら	P-395 落葉分解に関わるリグニン分解菌の機能的多様性：大園享司（同志社大学）ら		

口頭発表 座長

部門	発表番号	座長氏名(所属)	セッション番号	発表番号	座長氏名(所属)
林政1	A1~A5	林雅秀(山形大学)	T1	T1-1~T1-4	有賀一広(宇都宮大学)
	A6~A11	横田康裕(森林総合研究所)		T1-5~T1-8	佐藤政宗(森のエネルギー研究所)
林政2	A12~A15	芳賀大地(鳥取大)	T2	T2-1~T2-5	上原巖(東京農業大学)
	A16~A20	垂水亜紀(森林総合研究所)	T3	T3-1~T3-3	大田真彦(九州工業大学)
林政3	A21~A25	三木敦朗(信州大)		T3-4	藤原敬大(九州大学)
	A26~A28	横田康裕(森林総合研究所)	T4	T4-1~T4-2	藤木大介(兵庫県立大学)
風致・観光1	B1~B5	山本清龍(東京大学)	T5	T5-1~T5-3	池野英利(兵庫県立大学)
	B5~B9	愛甲哲也(北海道大学)		T5-4~T5-6	遠藤いず貴(兵庫県立大学)
風致・観光2	B10~B13	奥敬一(富山大学)			
	B14~B16	庄子康(北海道大学)			
	B17~B20	平野悠一郎(森林総合研究所)			
教育	C1~C4	寺下太郎(愛媛大学)			
	C5~C8	東原貴志(上越教育大学)			
	C9~C11	杉浦克明(日本大学)			
経営1	D1~D5	山田祐亮(森林総合研究所)			
	D6~D10	広嶋卓也(東京大学)			
経営2	D11~D15	米康充(島根大学)			
	D16~D20	加藤顕(千葉大学)			
	D21~D24	西園朋広(森林総合研究所)			
造林	E1~E4	八木橋勉(森林総合研究所)			
	E5~E8	渡邊仁志(岐阜県森林研究所)			
遺伝・育種	F1~F4	鶴田燃海(森林総合研究所)			
	F5~F8	成田あゆ(北海道立総合研究機構)			
生理	G1~G5	田原恒(森林総合研究所)			
植物生態	H1~H7	長池卓男(山梨県森林総合研究所)			
立地	I1~I4	高木正博(宮崎大学)			
	I5~I8	徳地直子(京都大学)			
防災1	J1~J4	宮下彩奈(森林総合研究所)			
	J5~J8	岩崎健太(北海道立総合研究機構)			
	J9~J11	正岡直也(京都大学)			
利用	K1~K3	櫻井倫(宮崎大学)			
	K4~K6	斎藤仁志(岩手大学)			
動物・昆虫	L1~L3	梶村恒(名古屋大学)			
	L4~L8	中村克典(森林総合研究所)			
	L9~L12	加賀谷悦子(森林総合研究所)			
微生物	M1~M2	松田陽介(三重大学)			
特用林産	N1~N2	小松雅史(森林総合研究所)			

ポスター発表番号一覧

ポスター番号	部門
PP-01	JFR論文賞
PP-02	日林誌論文賞
PP-03	
P-001	
P-002	
P-003	
P-004	
P-005	
P-006	
P-007	
P-008	
P-009	
P-010	
P-011	
P-012	
P-013	
P-014	
P-015	
P-016	
P-017	
P-018	
P-019	
P-020	
P-021	
P-022	
P-023	
P-024	
P-025	
P-026	
P-027	
P-028	
P-029	
P-030	
P-031	
P-032	
P-033	
P-034	
P-035	
P-036	
P-037	
P-038	
P-039	
P-040	
P-041	
P-042	
P-043	
P-044	
P-045	
P-046	
P-047	
P-048	
P-049	
P-050	
P-051	
P-052	
P-053	
P-054	
P-055	
P-056	
P-057	
P-058	
P-059	
P-060	
P-061	
P-062	
P-063	
P-064	
P-065	
P-066	
P-067	
P-068	
P-069	
P-070	
P-071	
P-072	
P-073	
P-074	
P-075	
P-076	
P-077	
P-078	
P-079	
P-080	
P-081	
P-082	
P-083	
P-084	
P-085	
P-086	
P-087	
P-088	
P-089	
P-090	
P-091	
P-092	
P-093	
P-094	
P-095	
P-096	
P-97	
P-98	
P-99	
P-100	
P-101	
P-102	
P-103	
P-104	
P-105	
P-106	
P-107	
P-108	
P-109	

ポスター番号	部門
P-110	
P-111	
P-112	
P-113	
P-114	
P-115	
P-116	
P-117	
P-118	
P-119	
P-120	
P-121	
P-122	
P-123	
P-124	
P-125	
P-126	
P-127	
P-128	
P-129	
P-130	
P-131	
P-132	
P-133	
P-134	
P-135	
P-136	
P-137	
P-138	
P-139	
P-140	
P-141	
P-142	
P-143	
P-144	
P-145	
P-146	
P-147	
P-148	
P-149	
P-150	
P-151	
P-152	
P-153	
P-154	
P-155	
P-156	
P-157	
P-158	
P-159	
P-160	
P-161	
P-162	
P-163	
P-164	
P-165	
P-166	
P-167	
P-168	
P-169	
P-170	
P-171	
P-172	
P-173	
P-174	
P-175	
P-176	
P-177	
P-178	
P-179	
P-180	
P-181	
P-182	
P-183	
P-184	
P-185	
P-186	
P-187	
P-188	
P-189	
P-190	
P-191	
P-192	
P-193	
P-194	
P-195	
P-196	
P-197	
P-198	
P-199	
P-200	
P-201	
P-202	
P-203	
P-204	
P-205	
P-206	
P-207	
P-208	
P-209	
P-210	
P-211	
P-212	
P-213	
P-214	
P-215	
P-216	
P-217	
P-218	
P-219	
P-220	
P-221	

ポスター番号	部門
P-222	
P-223	
P-224	
P-225	
P-226	
P-227	
P-228	
P-229	
P-230	
P-231	
P-232	
P-233	
P-234	
P-235	
P-236	
P-237	
P-238	
P-239	
P-240	
P-241	
P-242	
P-243	
P-244	
P-245	
P-246	
P-247	
P-248	
P-249	
P-250	
P-251	
P-252	
P-253	
P-254	
P-255	
P-256	
P-257	
P-258	
P-259	
P-260	
P-261	
P-262	
P-263	
P-264	
P-265	
P-266	
P-267	
P-268	
P-269	
P-270	
P-271	
P-272	
P-273	
P-274	
P-275	
P-276	
P-277	
P-278	
P-279	
P-280	
P-281	
P-282	
P-283	
P-284	
P-285	
P-286	
P-287	
P-288	
P-289	
P-290	
P-291	
P-292	
P-293	
P-294	
P-295	
P-296	
P-297	
P-298	
P-299	
P-300	
P-301	
P-302	
P-303	
P-304	
P-305	
P-306	
P-307	
P-308	
P-309	
P-310	
P-311	
P-312	
P-313	
P-314	
P-315	
P-316	
P-317	
P-318	
P-319	
P-320	
P-321	
P-322	
P-323	
P-324	
P-325	
P-326	
P-327	
P-328	
P-329	
P-330	
P-331	
P-332	
P-333	

ポスター番号	部門
P-334	
P-335	
P-336	
P-337	
P-338	
P-339	
P-340	
P-341	
P-342	
P-343	
P-344	
P-345	
P-346	
P-347	
P-348	
P-349	
P-350	
P-351	
P-352	
P-353	
P-354	
P-355	
P-356	
P-357	
P-358	
P-359	
P-360	
P-361	
P-362	
P-363	
P-364	
P-365	
P-366	
P-367	
P-368	
P-369	
P-370	
P-371	
P-372	
P-373	
P-374	
P-375	
P-376	
P-377	
P-378	
P-379	
P-380	
P-381	
P-382	
P-383	
P-384	
P-385	
P-386	
P-387	
P-388	
P-389	
P-390	
P-391	
P-392	
P-393	
P-394	
P-395	
P-396	
P-397	
P-398	
P-399	
P-400	
P-401	
P-402	
P-403	
P-404	
P-405	
P-406	
P-407	
P-408	
P-409	
P-410	
P-411	

ポスター番号	部門
KP-01	
KP-02	
KP-03	
KP-04	
KP-05	
KP-06	
KP-07	
KP-08	
KP-09	
KP-10	
KP-11	
KP-12	
KP-13	
KP-14	
KP-15	
KP-16	
KP-17	
KP-18	
KP-19	
KP-20	
KP-21	
KP-22	
KP-23	
KP-24	
KP-25	
KP-26	
KP-27	
KP-28	
KP-29	
KP-30	
KP-31	
KP-32	
KP-33	
KP-34	
KP-35	
KP-36	

高校生
ポスター
発表

企画シンポジウム

S1. 階層モデリングは森林の隠れた生態的状态の推測を可能にする

Inference of latent process of forests by hierarchical modeling and its validation

コーディネータ： 飯島勇人（森林総合研究所），伊東宏樹（森林総合研究所）

3月20日 9:00~12:00 会場 Room 1

階層モデルは、森林に存在する動物や植物の在・不在や個体数量などと、それらの動態を司る要因を明示的にモデル化し、推測できる優れた手法である。例えば、森林の構造は、立木や下層植生の存在により水平方向および垂直方向に複雑であり、動物はその複雑な構造に応じて行動している。そのため、研究者が動植物の在・不在や個体数量などとそれらの動態を直接かつ誤差なく観測することは、困難である。階層モデルは、興味のある現象やそれを駆動する要因を含む系全体の動態（生態的状态）を記述するモデル（生態モデル）と、生態モデルで記述した要素に関して取得するデータの取得過程を記述するモデル（観測モデル）の2モデルから構成される。そして、生態モデルと観測モデルには、解析者が任意の確率分布や構造を適用できる。このため、階層モデルは興味のある対象を直接観測できない状況での推測に適した特徴を有しており、森林科学分野でも普及しつつある。しかし、階層モデルはモデルの構造が柔軟であるがゆえに、階層モデルを用いて推定されたパラメータの妥当性の評価が、困難である。階層モデルによる推定結果は、純粋科学のみならず応用科学、政策の意思決定でも用いられるため、その妥当性の評価は重要である。本シンポジウムでは、森林科学分野における階層モデルによる推論事例と、推定されたパラメータの妥当性の評価方法を複数紹介する。これによって、本当に推測したいことと、推測に必要なデータについて「階層的に考える」ことの重要性を示したい。さらに、このような妥当性の評価の手法は、次の新たな研究を始める際に、必要なデータの種類や量を研究を始める前に推測できるなど、森林科学分野全体にとって有用であることを示したい。

S2. 2011 → 2021 → 2031 : 森林の放射能研究のこれまでとこれから

2011 → 2021 → 2031: Past and future of radiation research in Japanese forests

コーディネータ: 小松雅史(森林総合研究所), 大久保達弘(宇都宮大学)

3月20日 9:00~12:00 会場 Room 3

大会が行われる2021年の3月で東日本大震災および福島第一原発事故から10年が経過します。事故から行われた研究によって多くのことが明らかになりました。一方でまだ明らかでないこと、解決していない社会的問題は山積しています。そのため、森林の放射能研究を今後も継続していくことが何よりも重要です。昨年は大会が中止になったものの、有志でオンラインセッションを行い、研究の火を絶やさないようにしてきました。

例年は森林の放射能研究に関して公募セッションでの参加を行ってきましたが、事故後10年という節目であることから、これまでの研究の総括と今後の研究のあり方について皆様と議論していくためのセッションとして、企画シンポジウムにて開催いたします。セッションでは福島事故後の研究に関わってきた数名の研究者や行政担当者にこれまでと今後についてお話をしていただいた上で、パネルディスカッションを行いたいと思います。

なお、これまで行ってきた通常の研究発表についてはポスターセッションで実施します。システム上企画シンポジウムの枠ではできないようなので、発表予定の方はお手数ですが立地分野での登録をお願いします。またオンラインで行うため、恒例の一分ポスター紹介は行わない予定です。ご了承ください。

S3. 森林遺伝研究で明らかにするブナの生態・生理—樹木の生態遺伝学最前線—
Ecology and physiology of Japanese beech revealed by forest genetics:
the leading edge in ecological genetics for forest trees

コーディネータ： 玉木一郎（岐阜県立森林文化アカデミー），
長谷川陽一（森林総合研究所），稲永路子（森林総合研究所），
木村恵（森林総合研究所）

3月20日 9:00~12:00 会場 Room 4

国内の様々な樹木を対象に森林遺伝研究が行われており、研究成果の蓄積が進んでいる。次世代シーケンサーの登場により、データ取得が加速される昨今、蓄積された個々の成果をつなぎ合わせ、もっと大きな枠組みで森林のメカニズムの理解に迫ることができる段階にあるのではないだろうか。例えば、系統地理学的研究では数十樹種以上の結果が論文として報告されており、情報の普及と活用を目指し、研究成果をまとめた書籍も出版されている。複数種の結果をまとめて活用した例である。一方で一つの樹種について、生態・生理を遺伝学的手法を用いて深く追求できている樹種は今のところ限られている。

ブナは、日本の冷温帯の主要構成樹種の一つであり、九州から北海道にかけて広く分布している。日本海側では純林を形成し、太平洋側ではその他の高木性樹種と混交林を形成する。生態・生理に関する研究の蓄積が豊富なだけでなく、日本の森林遺伝学の黎明期から研究の対象とされており、現在でも多くの研究グループにより森林遺伝研究が進められている。

本シンポジウムは昨年度に計画されていたものをベースとし、それにさらに最新の知見を加えたものとなっている。ブナの幅広い研究事例を遺伝学的視点から概観することで、日本を代表する広葉樹であるブナの生態・生理について議論したい。また、ブナの例を通して、成果の蓄積と共有が今後、森林遺伝学の発展に与える影響について考える機会としたい。

S4. 深層学習による森林画像の分析とその活用

Analysis and Application of Forest Image by Deep Learning

コーディネータ： 矢田豊（石川県農林総合研究センター），鷹尾元（森林総合研究所）

3月20日 9:00~12:00 会場 Room 6

本セッションでは，令和2年版森林・林業白書のトピックスにも紹介された「スマート林業のフル活用」を推進していくための重要な技術分野である，UAVによる空撮画像や全天球画像等の森林画像の活用技術に注目したい。UAVによる空撮画像からSfM技術により生成される高解像度オルソ画像や，手持ち式の比較的安価な全天球カメラもしくはUAVによる全天球画像の取得により，従来にはない情報の量と質を併せ持った森林画像が，比較的 low コストで取り扱えるようになってきた。一方，画像等の解析対象から必要な特徴量を効率的に抽出するための手段として，深層学習等のAI技術が注目されてきており，森林・林業分野での応用についても期待されている。

本セッションでは，UAVによる空撮画像や全天球画像等の森林画像から深層学習技術等を用いて森林境界や森林資源に関する情報を抽出し，その情報を林業の実務現場で容易に活用できるシステム開発の成果を中心に紹介する。

そして上記成果を踏まえ，これらの技術を活用していく上での今後の課題や研究・普及の方向性について，議論を深めたい。

S5. 森の根の生態学 —樹木根の成長と機能共同企画シンポジウム—

Root Ecology of Forest Trees

コーディネータ： 平野恭弘（名古屋大学），野口享太郎（森林総合研究所），
大橋瑞江（兵庫県立大学）

3月20日 9:00~12:00 会場 Room 7

樹木は、太い根を土壌中に広く良好に発達させることで根返りや表層土壌崩壊を防ぎ、細い根で養水分を吸収し様々な環境に適応しながら生存します。樹木の根に関する研究は、土壌中に生育し見えないことや研究対象として取り扱うことの難しさから、葉や幹など地上部研究に比べ立ち遅れてきました。近年、環境変動化における樹木の適応や森林の物質循環を駆動する役割などの視点から、樹木根の研究も急激に進展しつつあります。

本企画シンポでは、樹木根の成長と機能について、太い根から細い根、また根をとりまく生物や土壌環境などにも着目しながら、「森の根の生態学」としていくつかの総説的な講演をしていただく予定です。具体的には、樹木根の構造や成長の基礎的な仕組み、物質循環における樹木根の役割、温暖化や酸性化などの樹木根の反応、樹木根の持つ減災機能や生態系サービスなどについて、国内の知見を中心にこれまでの知見をまとめた講演となる予定です。これを機会に「樹木根の成長と機能」を体系的に理解し、持続可能な発展のための社会にどのように樹木根研究が貢献できるかも議論していきたいと思えます。

S6. 燃料革命以降の森林状況変化の理解と、それらが水・土砂・流木の流出に及ぼす影響をふまえた災害予測の可能性

Understanding the effects of the changes in forest conditions since the fuel revolution on water, sediment and woody debris transport, and for consideration of the disaster prediction based on those knowledges

コーディネータ： 浅野友子（東京大学），内田太郎（筑波大学）

3月20日 9:00~12:00 会場 Room 8

現在、日本の山地は豊かに森林が生い茂り、過小利用による人工林の荒廃や、土砂流出量の減少が問題視されることさえある。森が主な燃料や肥料、建材の供給源であった100年前までは、里山は荒廃し、はげ山など荒廃した山地からの土砂流出が問題であった。当時は、毎年あるような降雨による表土の侵食速度は現在に比べて大きかった。つまり、森林の回復にともない、通常降雨による侵食速度が減少したことにより、斜面の表土層厚は年々増していると考えられる。この状況は言い換えると、斜面崩壊による土砂流出が生じない限り、山地流域内に土砂と立木をため込み続けているともいえる。このような状況下で記録的な豪雨があると、斜面は崩壊し、流域にたまっていた土砂と流木が流出することになる。この場合、一度の豪雨で流出する土砂と流木の量は、山地が荒廃していた時代よりも多くなる可能性がある。また、斜面崩壊を生じさせる降雨の規模も変化する可能性がある。要するに、現在、山地の多くは、森林の生育と表土の蓄積により、特に江戸時代以降では経験したことのない状態にあり、今後、気候変動によりさらに降雨が激甚化すると、災害の生じ方が従来とは異なってくる可能性がある。一方で、現在の災害対策技術は過去の災害の経験をもとにしている部分が多くあり、将来の災害を予防するためには、森林状況と表土層の歴史的な変化と現状を理解し、それらが水・土砂流出に及ぼす影響を考慮した上で将来を予測する必要がある。そこで本シンポジウムでは、日本の山地・森林の変遷について振り返り、過去からの時間の流れの中で現状を理解することに焦点を当てる。また、水・土砂・流木流出の実態理解の到達点を整理し、森林状況の変化をふまえた災害予測の可能性について議論する。

S7. 生理部門企画シンポジウム「分析のツボ」と研究交流の促進

Physiology Section Symposium “Tips for tree growth analysis” and research exchange promotion

コーディネータ： 則定真利子（東京大学），田原恒（森林総合研究所），
小島克己（東京大学），斎藤秀之（北海道大学），津山孝人（九州大学）

3月20日 13:00~16:00 会場 Room 2

講演会「分析のツボ」と生理部門の研究交流を促進するプログラムとで構成する生理部門の企画シンポジウムを開催します。

生理部門では、部門キーワード（第132回日本森林学会大会のお知らせ（第2回）参照）にもありますように、個体から細胞・分子レベルまでの幅広いスケールの現象を対象に、多様な手法を用いて樹木の成長の仕組みを明らかにする研究に携わる方々の情報・意見交換の場となることを目指しています。従来の研究分野の枠組みにとらわれることなく、さまざまなスケール・手法で樹木の成長の仕組みの解明に携わる多くの皆様に、生理部門での口頭・ポスター発表にご参加頂くとともに、本シンポジウムにご参集頂きたいと考えております。

講演会では、樹木の成長のしくみをさまざまなアプローチで探っている研究者に、分析・解析手法のツボをご紹介します。オンラインによる開催を活かして、手法のライブ/ビデオ紹介を講演に含めるなどの工夫をすることで、ワークショップ的な要素を含む講演会とします。講演者は、NanoSIMSによる元素イメージングを用いた木部形成過程の解明に取り組まれている、東京大学の竹内美由紀氏、年輪試料の安定同位体比分析から光合成産物や酸素・水素の分配様式の解明に取り組まれている、森林総合研究所の香川聡氏、樹木の水分通導性のストレス応答を組織内の水分分布様式に着目して研究されている、森林総合研究所の矢崎健一氏の3名です。

本企画シンポジウムの一環として、大会の発表様式がより具体化した段階で、生理部門での研究発表に関連する研究交流を促進するしくみを設計します。ポスター発表の1分の音声付き紹介ファイルを事前に集めてシンポジウムのプログラムに含める、あるいはオンライン情報意見交換会を設けて、それを企画シンポジウムで案内する、などの形式が考えられますが、これらに拘ることなく、効果的なしくみを設けたいと考えています。

S8. 土木分野における木材の利用促進に向けて

Towards the promotion of wood utilization in civil engineering

コーディネータ： 玉井幸治（森林総合研究所），桃原郁夫（森林総合研究所）

3月20日 13:00～16:00 会場 Room 3

本格的な利用期を迎えた国内の森林資源を循環利用し，林業・木材産業を成長産業化することが強く求められている。そのためには林業の低コスト化に加え，材価を向上させる木材の需要拡大が必須となる。木材の需要拡大に向けた取組については，大型木造等に関する建築分野の取組及びその成果が広く普及するに至っているが，土木分野における取組やその成果については十分に知られていない状況にある。そこで今回，森林学会員と木材学会員を発表者とする企画シンポジウムを開催し，土木分野における木材需要拡大に資する最新の研究成果を紹介したい。

S9. スギの生育および雄花着花に影響を与える環境要因の解明とその評価

—気候変動に適応した林木育種の可能性—

Elucidation and evaluation of environmental factors affecting growth and male strobili formation in Japanese cedar:

Feasibility of breeding aiming at the adaptation to climate change

コーディネータ： 三嶋賢太郎（森林総合研究所），松下通也（森林総合研究所），
倉本哲嗣（森林総合研究所），高橋誠（森林総合研究所），渡辺敦史（九州大学）

3月20日 13:00~16:00 会場 Room 4

気候変動に関する政府間パネル（IPCC）第5次評価報告書において、地球温暖化は確実に進行し続けるとされている。将来の気候変動下において、森林・林業分野における人工林の生産性と健全性を維持するためには、短期的対応だけでなく、最も厳しい温室効果ガスの削減努力を行った場合においても想定される気候変動に対処するためにも中長期的な適応が必要となる。本企画シンポジウムでは、今後想定される気候変動適応を見据え、環境要因がスギの成長等の生育に与える影響の解明および評価手法の開発について、またそれらの知見を基に気候変動に適応したスギ育種の可能性といった一連のテーマについて複数の研究報告を行う。具体的には、全国に設定された試験地（検定林等）のミクロ環境情報とマクロな環境情報（メッシュ気候値データ）と成長データをGISに統合・解析した植栽木の環境応答性の定量化、気候変動による高温化および乾燥化を想定し、人工制御環境下において育成したスギ苗の環境応答性を定量化する新たな表現型評価手法の開発、気候変動による高温および乾燥下でのスギにおける遺伝子の発現動態や雄花着花量の変動等に関する最新の研究成果について報告を行っていただく。これらの研究発表を踏まえて、今後の環境変動に適応した林木育種の可能性について議論したい。

S10. 森林教育研究のさらなる展開を目指して

—森林, 自然, 木材を活用した教育活動の研究の可能性を探る—

For Seeking to Extend Forest Education Research Activities:

Exploring the possibilities of research on educational activities that utilize forest, nature, and timber

コーディネータ： 山田 亮（北海道教育大学），東原貴志（上越教育大学），
井上真理子（森林総合研究所）

3月20日 13:00~16:00 会場 Room 5

日本森林学会では、森林教育に関するセッションが第114回大会から設けられ、第129回大会から教育部門が設置された。近年では、地域の森林環境における体験活動の展開やプログラム開発など、教育に関する研究に、より一層の推進が期待されている。ただし、森林に関わる教育活動は、実践するフィールドの条件が多様で、活動内容も幅広く、数多く実践活動が行われている一方、研究の対象や方法の確立には至っておらず、未だ発展途上といえる。森林教育研究が、人を相手にする実践が基本となる教育活動を多角的に読み解き、森林科学の一部門としての発展を図るには、森林教育に関係する近接領域の研究者や教育活動の実践者がもつ視点から学び、研究方法の確立を目指さなくてはならない。

第129回大会では、森林教育に関わりが深い環境教育、野外教育、木材学や建築学の関係者とともに「森林教育研究のさらなる展開を目指して」と題した企画シンポジウムを開催し、森林教育研究の深化と拡がりの可能性を見いだすことができた。続く、第130回大会でも同様に、森林教育の近接分野の研究者が、教育実践活動から得られる効果について様々な視点で言及した。そして2020年2月に発行された日本森林学会誌第102巻第1号において、「森林教育研究の展望」と題した特集に論文2編、短報2編が掲載され、画期的かつ先駆的な研究成果が発表された。いずれも森林教育の実践や研究の課題を整理しながら、近接領域で導入されている研究手法を用いて結果を導き出しており、その成果は森林教育研究の発展に寄与するものであるとともに、これまでの企画シンポジウムの成果といえよう。

そこで、これまでの流れを踏まえ、森林教育研究のさらなる展開を目指して、近接領域である林産教育や野外教育、環境教育の関係者からの研究や実践事例を集めたシンポジウムを企画した。森林科学の知見の普及に関心のある研究者や人材育成に関わる多くの学会員に参加いただき、ともに議論を行いながら、森林教育研究の可能性を追求していく機会としたい。

S11. 水源涵養機能の科学的評価を考える

Toward scientific assessments of water securing function of forest

コーディネータ： 五味高志（東京農工大学），堀田紀文（東京大学）

3月20日 13:00~16:00 会場 Room 8

近年，人工林を中心として 50 年生以上の林分が半数以上を占めるなど森林資源が充実している状況である。かつて，ハゲ山であった山地からの森林の回復過程では森林の有無を中心とした水源涵養機能の評価で十分であったが，森林の管理や森林状態を考える必要がある「森林飽和」時代の水源涵養機能の評価においては，林相状態や管理までを考慮に入れた水源涵養機能の評価が必要である。一方で，森林の水源涵養機能を中心とした公益的機能は森林土壌に強く依存するものとしての認識もあり，森林状態や成長による林相の変化と森林の水源涵養機能との関係は十分に議論されていない。そこで，本企画シンポジウムでは，日本における水源涵養機能の評価について，現状と課題を網羅的に議論するとともに，今後の流域森林計画における水源涵養機能の評価の位置づけを検討するものである。

公募セッション一覧

- T1. 未利用木材利用可能量推計およびサプライチェーンマネジメント
Availability estimation and supply chain management of unused woody materials

コーディネータ： 有賀 一広（宇都宮大学），久保山 裕史（森林総合研究所），
佐藤 政宗（森のエネルギー研究所）

3月20日 9:00~12:00 会場 Room 2

2012年7月に再生可能エネルギー固定価格買取制度FITが開始され、木質バイオマス発電、特に固定価格が高値に設定された未利用木材を燃料とする発電施設が、2020年3月時点で、全国で139カ所新規認定され、すでに70カ所で稼動しています。未利用木材を燃料として利用することは、林業振興や山村の雇用創出などに貢献することが期待されていますが、一方で出力5,000kWで60,000t/年程度が必要とされる未利用木材を買取期間20年間、安定して調達できるか、また木質バイオエネルギーの持続可能性などが懸念されています。そこで本公募セッションではこれまで「日本全国の長期的な森林バイオマス利用可能量推計モデル」と「未利用木材のサプライチェーンマネジメント」に関する研究を行ってきた研究者にご講演いただき、これらの研究の現状と課題を整理し、ポストFITを見据えて、今後の木質バイオマス発電の採算性向上に資する未利用木材長期安定供給シナリオの提示、新たな産業となる森林バイオマスサプライチェーンの確立、そして安定的な未利用木材の供給体制の構築や木質バイオエネルギーの持続可能性などに関して議論を深めたいと考えております。多数の皆様のご参加を心よりお待ちしております。

T2. 森林環境の持つ保健休養機能の基礎的研究と応用研究

Basic and applied studies on forest amenities

コーディネータ： 上原 巖（東京農業大学）

3月20日 9:00~11:00 会場 Room 5

本セッションは第132回大会で17回目を迎え、森林科学研究の分野の中で、一般市民の需要と関心が高い分野の1つです。これまでの大会では、生理的および心理的なアプローチの基礎的研究をはじめ、臨床事例、研究手法、尺度開発、国内外の地域における事例研究などが発表されてきました。基礎的研究から、保健休養に供する森林環境の整備といったハードの課題、治療・保養プログラム作成等のソフトの課題、そして各臨床症例・事例研究や、保養地事例などに至るまで多岐にわたった内容になっていることが特徴です。そのため、森林・林業関係者だけでなく、医療、社会福祉、心理、教育など、多領域の専門家に参加していただきながらコラボレーションを行ってきたことが本セッションの特色であり、存続意義でもあります。森林環境は、一般市民の日常的な健康増進はもとより、日常の各職場における保健衛生や、医療、福祉、教育などの社会における諸分野での可能性が大きく、特に新型コロナウイルス禍の現在においては、その需用も高まっています。本大会のセッションでは、そのような諸分野における視点から心身の保健休養に供する森林、樹木の利用、活手法などの調査研究だけでなく、特に事例研究にも重点を置き、さらに森林の持つ保健休養機能についての研究手法、アプローチ方法そのものについても検討、考究することを目的としています。従来の研究対象をふまえ、さらに新たな分野、領域における調査研究対象の拡大も歓迎いたします。

T3. 熱帯林研究

Tropical Forestry Research

コーディネータ:

OTA Masahiko 大田 真彦 (Kyushu Institute of Technology 九州工業大学),

FUJIWARA Takahiro 藤原 敬大 (Kyushu University 九州大学),

ONDA Nariaki 御田 成顕 (FFPRI 森林総合研究所),

TERAUCHI Daisuke 寺内 大左 (Toyo University 東洋大学)

3月20日 9:00~10:15 会場 Room 9

This session is designed to share knowledge, information, and experiences on tropical forestry research. To address issues and achieve better conservation and utilization of tropical forests, it is essential to have the following: (1) knowledge on interdisciplinary approaches, (2) dialogue based on accurate information, and (3) learning from past experiences of trial and error. We invite presentations from various research fields such as ecology (e.g. biodiversity, carbon stock), silviculture, socioeconomics (e.g. farm economy, community forestry), anthropology (e.g. local livelihood, culture), politics (e.g. national and international policy), and information science (e.g. remote sensing, GIS). We also welcome presentations by international students as well as young Japanese researchers. To carry out discussion among participants from different countries, English is official language for all presentations and following question and answer in this session. To facilitate lively discussion in this session, the speakers are encouraged to make your presentations understandable for the participants with different background and mother languages.

T4. 森林におけるシカ問題の解決に向けて

For eliminating the impact of deer on forestry and forest ecosystems

コーディネータ： 明石 信廣（北海道立総合研究機構），藤木 大介（兵庫県立大学），
飯島 勇人（森林総合研究所），安藤 正規（岐阜大学），
田村 淳（神奈川県自然環境保全センター）

3月20日 13:00~13:45 会場 Room 1

ポスター発表 3月19日~23日 P-401~403

全国各地におけるシカの増加によって、森林では様々な影響が顕在化している。シカによる森林への影響を軽減するためには、シカの生息状況や森林への影響の把握方法、影響の程度を決定する要因の解明のみならず、科学的モニタリングや捕獲技術に支えられた個体数管理手法の確立が必要とされる。また、これらの知見や技法を育林技術や林業経営、さらには森林に関する政策と統合するための多様な視点からの検討が必要である。

シカによる影響の蓄積によって、森林生態系に容易には回復させることのできない変化が生じることが明らかにされつつあり、他の生物や土壌などに及ぼす影響についても研究がすすんでいる。森林への影響が広域化し、これまでシカの少なかった地域でもシカ対策が求められるようになってきているが、そこでは、すでに対策がすすんでいる他地域の事例が大いに参考となるだろう。一方、林業分野ではシカの生息下で適切に施業を進めていくための方策が求められており、更新施業の中でシカ捕獲を実施するなどの実験的取り組みなども実施されている。今後、人工林資源が成熟して再造林面積が増加することが予想される中、再造林地のシカによる更新阻害問題が深刻化する可能性がある。育林技術や林業経営の視点からのシカ対策に関する研究も大いに取り組まれる必要があるだろう。

本セッションは2015年から継続して設定している。今年も、シカ問題に関心をもつ多様な分野の研究者からの発表を期待する。

T5. 樹木根の成長と機能

Development and function of tree roots

コーディネータ： 野口 享太郎（森林総合研究所），大橋 瑞江（兵庫県立大学），
平野 恭弘（名古屋大学）

3月20日 13:00～15:15 会場 Room 7

ポスター発表 3月19日～23日 P-404～411

公募セッション「樹木根の成長と機能」では、樹木根をキーワードに太い根から細い根まで、生態系レベルから細胞レベルまで、根と関連した多岐にわたる研究を公募し、報告対象といたします。本公募セッションでは、樹木根だけでなく、様々な境界領域分野との融合を目指します。研究内容に「根」に関する測定や事象があれば、葉や材質をはじめとする樹木地上部に関する研究、土壌微生物や化学特性、緊縛力など土壌に関する研究、温暖化や酸性化といった環境変動に関する研究など、根以外を主要な対象とする発表も広く歓迎いたします。さらに、「根」を測定項目としたい会員向けに測定方法の共有も目的とします。発表形式は口頭発表またはポスター発表とします。

発表当日は、趣旨説明の後、口頭発表していただき、適宜発表間に討論時間を設け、最後に総合討論の時間を設ける予定です。趣旨説明では根研究学会の開催する根研究集会の紹介、2021年6月に米国で開催予定の第8回国際樹木根会議の紹介など樹木根研究の国際および国内動向を森林学会員に広く情報提供します。総合討論では、樹木根と境界領域分野との研究者間ネットワーク作りを促進するための討論も行います。

学会企画

1. 二学会におけるダイバーシティ推進の取り組みとこれから

～Withコロナ時代の学会に求められること～

コーディネータ： 高山 範理（森林総合研究所・森林学会），
竹内 啓恵（全国森林レクリエーション協会・森林学会），
中山 榮子（昭和女子大学・木材学会）

3月24日（水）13：00～15：00

森林学会・木材学会のダイバーシティ推進部門主催の二学会合同セッションを開催する。セッションでは、まず先達および若手研究者による講演を通して、両学会のこれまでの取り組み、今後期待する取り組みについて共有する。また、男女共同参画学協会連絡会主催のアンケート等から得られた分析結果等を共有し、Withコロナ時代に両学会に求められる課題、要望、期待等について検討することで、今後の両学会のダイバーシティ推進の取り組みに貢献することを目指す（※Zoom Webinar を使用予定。URL等の詳細は大会ホームページでご確認ください）。

プログラム：

- ・開会挨拶・趣旨説明：玉井 幸治（森林学会）
- ・講演1：黒田 慶子（森林学会）「ジェンダーギャップを減らすための社会参画教育」
- ・講演2：藤澤 秀次（木材学会）「木材学会におけるダイバーシティの未来」
- ・男女共同参画学協会連絡会の『コロナ禍の研究者アンケート』追跡調査報告
報告1：中山 榮子（木材学会）
報告2：高山 範理（森林学会）
- ・パネルディスカッション
テーマ：Withコロナ時代の学会に求められることとは？
司会：杉山 淳司（木材学会）
パネラー：黒田 慶子，高山 範理，木村 恵（森林学会）
中山 榮子，藤澤 秀次（木材学会）
- ・閉会挨拶：鮫島 正浩（木材学会）

2. 聞いてみたい！女性研究者によるフィールドワーク&ライフイベント

コーディネータ：竹内 啓恵（ダイバーシティ推進委員会，全国森林レクリエーション協会），
片桐 奈々（ダイバーシティ推進委員会，岐阜県森林研究所），
木村 恵（ダイバーシティ推進委員会，森林総合研究所林木育種センター），
高山 範理（ダイバーシティ推進委員会，森林総合研究所）

3月24日（水）16:00～17:30

2年前に行ったワークショップでは，所属先によって女性研究者の人数に限られており，ロールモデルとなる先輩研究者に出会えないことや，気軽に相談できる環境が得られないという声がありました。そこで，本大会では森林学会に所属する二人の女性研究者を囲むオンライン茶話会を開催し，これまで聞いてみたかった「フィールドワークでの疑問や工夫」，「ライフイベントへの不安」などを語り合いたいと思います。学生，若手研究者のご参加も大歓迎です。ぜひみなさまのご参加をお待ちしております。

女性研究者（メンター）：浅野 友子氏（東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林）
鈴木 節子氏（森林総合研究所）

形式：オンライン

対象者：大会参加者（女性限定）

参加予定人数：20名程度 先着順

〆切：2021年3月17日（水） 17:00

申込手続き：

必要事項（参加者の名前・所属先・職位・連絡先・メールアドレス・興味のある話題「フィールドワーク」または「ライフイベント」のどちらかを記載）を，期日までにダイバーシティ推進委員会宛（diversitypromotion@forestry.jp）までお送りください。こちらから当日のオンラインアドレスをお送りいたします。

万が一，当日の2日前になっても，ダイバーシティ推進委員会から連絡が届かない場合は，その旨をご記載いただき，再度ダイバーシティ推進委員会宛にメールでお問合せください。

3. 企画タイトル：帰国留学生会員およびアジアの林学会とのネットワークフォーラム (Online Reunion of Ex-Overseas Student Members and International Networking Forum among Forest Societies in Asia)

コーディネータ：大久保 達弘（国際交流担当理事，宇都宮大学），

大田 真彦（公募セッション「熱帯林研究」コーディネータ，九州工業大学）

ポスター発表（全日），交流会（3月20日 16:30～18:30 会場 Zoom）

日本森林学会には，多数の留学生が学生会員として所属し，発表を行なっている。しかし，会費負担等の関係から，帰国後は本学会を退会し，関係が疎遠になる場合が多い。

そこで，本企画では，オンライン開催のメリットを生かし，すでに本国に帰国した元留学生会員への学会参加・発表機会を提供する。目的としては，学位取得後の研究フォローアップ，学会発表実績の提供および帰国留学生会員同士や日本人会員との国際共同研究の萌芽形成を想定している。

参加者から事前に提出されたポスター発表を，学会の全日程，非同期（オンデマンド）形式で公開する。これに加え，本企画では，同期（リアルタイム）形式で交流会を行い，参加者同士が直接やりとりできる機会を提供し，今後の交流に向けた意見交換を予定している。

また今年度は，アジア各国の林学会（韓国，中国など）からの活動内容の紹介も含む予定である。現在日本の大学に所属している留学生会員や日本人会員にも，積極的に参加して頂きたい。

4. 森林科学を学んだらどんな仕事があるのか？

コーディネータ：黒田 慶子（学協会連携担当理事，神戸大学），
田中 浩（学協会連携担当，日本森林技術協会）

全日

これまで、「若年層に魅力的な学会とは」という観点で、学生向けの企画として進路に関する情報提供をしてきた。前回（昨年は実施せず）の企画の際の参加者アンケートには、研究者としてトップを走る人だけでなく「ふつうの人の就職先」を取り上げて欲しいという要望があった。そこで今回は、オンライン開催（オンデマンドまたは学会発表時間帯以外の配信）とし、近年の就職者の談話を紹介する。オンライン開催のため、講演者を学会員以外にも広く依頼しやすいという利点がある。以下のような職種の仕事をする若手の方々に、就職先を選択した理由や仕事の面白さなどを紹介してもらう。

1. 地方自治体の森林関連部署
2. 林業，造園関連の企業，樹木医
3. 森林・林業コンサルタント
4. 木材・内装・住宅関連の企業
など

5. 高校生ポスター表彰式とパネルディスカッション「大学で森林を学ぶ」

コーディネータ：太田 祐子（中等教育連携推進担当理事，日本大学），
杉浦 克明（中等教育連携推進担当主事，日本大学）

3月23日 11:00～12:30 会場 Zoom

この企画では、はじめにポスターの表彰式を行います。続いて、高校生の皆さんに大学での学びや研究、森林に関わる仕事を知ってもらうために、動画で紹介を行います。そのあとに大学生・大学院生との意見交換を行いたいとおもいます。

具体的な内容としては、大学での学びや研究に関していくつかの大学の講義や実習の様子を紹介します。森林に関わる仕事については、林野庁ではどのような仕事をするのか実際に林野庁で働いている方に仕事内容を紹介してもらいます。

また、現役大学生・大学院生と高校生との意見交換の場を設けます。大学で森林科学を学ぶことについて現役の学生に質問できるまたとない機会になっています。皆さんの進路の参考になる話が聞けるかもしれません。ざっくばらんに情報交換ができる場にしていきたいと思っていますので、高校生の積極的な参加をお待ちしております。

6. 技術者教育からみた4年制大学教育の現状

コーディネータ：枚田 邦宏（企画担当理事，鹿児島大学），
松本 武（企画担当主事，東京農工大学）

3月中旬

去る2020年5月に開催予定であった「日本森林学会 公開シンポジウム 高等教育機関に求められる森林科学，林学，林業に関する教育研究を考える」を開催して日本森林学会の学会メンバーに，技術者教育を考える必要性を提起する予定であった。しかし，新型コロナウイルス感染拡大により，シンポジウム開催はできなかった。さらに，2020年秋から学会内外で4年制大学の教育の現状に関するアンケート調査がはじまった。

そこで，日本森林学会の基盤の1つである大学を対象に林学・森林科学の教育体制をトピックとしたシンポジウムとしたい。

報告内容（案）

第一報告：大住 克博（日本森林学会将来検討委員会委員長，元鳥取大学）

技術者養成に関する大学の現状と問題点（仮題）（20分）

第二報告：枚田 邦宏（20201～2021年度 企画・JABEE 理事）

これからはじめる大学の森林科学・林学の教育研究の検討（20分）

休憩（10分）

第三報告：行政からみた大学教育卒業生の受け入れ状況（仮題）（林野庁（20分）

第四報告：林学教育研究会メンバー（30分）

今後実施する森林関係大学に大学アンケート（各大学における林学教育の現状についての基礎情報を調査）の中間報告

質疑応答（20分）

第8回 高校生ポスター発表 学校名・発表題目

表彰式など 3月23日（火）11：00～ 学会企画「高校生ポスター表彰式とパネルディスカッション「大学で森林を学ぶ」」
参加校の生徒の皆さんは上記の企画にご参加ください。

発表番号	学校名	発表題目
KP-01	岐阜県立不破高等学校	南宮山における野生イノシシの撮影頻度とCSF(豚熱)の関係と考察
KP-02	熊本県立矢部高等学校	ニホンミツバチの研究 ～豊かな地域資源を地域活性化につなげるために～
KP-03	熊本県立矢部高等学校	目指せ！伐木プロフェッショナル～町の林業活性化に向けた取り組み～
KP-04	熊本県立矢部高等学校	山都町の木材を活用した木工品の製作と木育や福祉分野での活用に関する研究
KP-05	宮城県多賀城高等学校	不思議な生きもの「マクラギヤスデ」の生態調査
KP-06	岡山県立勝間田高等学校	みんなで学校のソメイヨシノを元気にしよう
KP-07	栃木県立栃木高等学校	有機物を微生物が分解することで生成するリン酸量の測定
KP-08	栃木県立栃木高等学校	植物の生育段階における、葉のリン酸量の変化
KP-09	熊本県立南稜高等学校	“もっと”木育！～地域資源を活用した、木材の利用促進と伝統文化の継承～
KP-10	熊本県立南稜高等学校	球磨モンの水土林Project★～水と郷土と緑を育む故郷環境保全活動～
KP-11	宮津高等学校, 宮津天橋高等学校	京都府絶滅寸前種サンショウモの保護に向けた研究・実践
KP-12	宮津高等学校, 宮津天橋高等学校	地域遺産「巨樹」の調査とその活用に向けた挑戦
KP-13	新潟県立新津高等学校	ハイハマボッサに適する生育環境
KP-14	福井県立若狭高等学校	ヒシとタニシが及ぼすブルーギルへの影響
KP-15	東京都立科学技術高等学校	サンブスギオイルによるチャアナタケモドキの耐性
KP-16	宮城県農業高等学校	サクラの新品種開発でCO2の吸収を促す～被災校震災10年目の挑戦！～
KP-17	名古屋市立向陽高等学校	森林におけるシカの行動
KP-18	広島県立広島国泰寺高等学校	広島県絵下山における環境因子による直翅類昆虫の種、個体数の変化
KP-19	山梨英和中学校・高等学校	富士東麓「山中のハリモミ純林」は衰退するのか
KP-20	岐阜県立大垣西高等学校	岐阜県大垣市に生育するタンポポ属に関する調査
KP-21	UWC ISAK Japan	想いが交わり、育まれる森
KP-22	石川県立七尾高等学校	マイタケプロテアーゼによる異なるタンパク質に対する作用について
KP-23	私立山脇学園高等学校	マングローブ散布体の初期成長特性から考える生態系のつながり
KP-24	群馬県立尾瀬高等学校	尾瀬国立公園アヤマ平植生調査
KP-25	佐賀県立致遠館高等学校	スギ高齢林は大丈夫？ースギ高齢人工林における幹の非破壊腐朽診断ー
KP-26	徳島県立池田高等学校	森林と暮らす
KP-27	福井県立若狭高等学校	カイワレ大根の成長における肥料の必要性
KP-28	福井県立若狭高等学校	取り出せエネルギー！～セイタカアワダチソウのバイオエタノール化～
KP-29	京都府立嵯峨野高等学校	森林における土壌透水性 ～現場土壌透水性法と試料円筒法の違い～
KP-30	京都府立嵯峨野高校	森林の水源涵養機能の評価に向けて ～土壌透水性と土壌貫入強度～
KP-31	奈良学園中学校・高等学校	校内サギソウ群落の送粉者の研究
KP-32	東京都立西高等学校	自動撮影カメラを利用した神奈川県北部におけるニホンジカの生息状況調査
KP-33	東京都立農業高等学校	ケヤキPROJECT
KP-34	群馬県立利根実業高等学校	ソバ殻を培地基材としたアラゲキクラゲの栽培実験
KP-35	東京都立国分寺高等学校	カラスバトニこだま カラスバトを絶滅から救え
KP-36	東京都立国分寺高等学校	火山地帯に生息するアリの生態

国土緑化推進機構「緑と水の森林ファンド」助成事業／大日本山林会協賛 中等教育連携推進委員会

第 132 回日本森林学会大会での関連集会の情報

例年、日本森林学会大会時には関連集会被開催されています。

第 132 回大会はオンラインでの開始となりますが、森林遺伝種学会、森林昆虫談話会、森林利用学会、樹木病害研究会、林業経済学会から、情報が寄せられましたのでお知らせします。お問い合わせなどは、それぞれの関連集会にお願いいたします。

またここに記載されていない関連集会については、それぞれにお問い合わせください。

森林遺伝育種学会

研究集会名：森林遺伝育種学会第 10 回シンポジウムの開催について

新型コロナウイルス感染症に関する昨今の状況を鑑み、森林遺伝育種学会第 10 回シンポジウムはオンラインで開催することになりました。今回は「ヒノキの遺伝、育種と林業」をテーマに 5 名の先生方にご講演頂きます。

❖ シンポジウム情報

ヒノキは、スギやマツ等とともに我が国の重要な林業樹種の一つであり、遺伝的変異の解明や第二世代精英樹・特定母樹の開発とともに、近年では雄性不稔個体の選抜・品種化も進んでいる。そこで、第 10 回森林遺伝育種シンポジウムでは、これまでのヒノキにおける無花粉ヒノキを含めた次世代育種や遺伝資源の保存・評価の取組みについて、ヒノキの遺伝・育種分野の第一線で研究されている方々に話題提供していただくとともに、優良種苗を活用したヒノキ林業の経営に携わっておられる事業者の方や、在来品種の利用促進に関わっておられる自治体の方からも話題提供いただく。そして、ヒノキをとりまく情勢やニーズ等もふまえ、今後のヒノキの遺伝・育種・林業について議論・展望する機会としたい。

日時：3 月 24 日（水）9:30～12:30

コーディネータ：岩泉 正和（森林総研林育セ関西）

プログラム：

9:30～ 9:40 趣旨説明：岩泉 正和（森林総研林育セ関西）

9:40～10:10 「ヒノキの生態と遺伝的変異」 松本 麻子（森林総研）

10:10～10:40 「ヒノキの次世代育種集団の構築と特性評価」 三浦 真弘（森林総研林育セ関西）

(10:40～10:50 休憩)

10:50～11:20 「ヒノキの無花粉育種に向けて」 齋藤 央嗣（神奈川県自然環境保全セ）

11:20～11:40 「ヒノキ林業のこれまでとこれから」 川端 康樹（(株)海山林友/速水林業）

11:40～12:10 「挿し木品種『ナンゴウヒ』のブランド化」 高田 美穂（熊本県高森町役場/阿蘇南郷檜ブランド化推進協議会）

12:10～12:30 総合討論

❖ 参加方法

【事前登録】

3月17日（水）までに以下の URL (<https://forms.gle/UtmrBhuDEwPpV6Am8>) にあるフォームから事前登録をして下さい。本講演会は定員 500 名となっていますので、なるべくお早めにお申込み下さい。ご登録が完了した方には、登録アドレスに自動応答メールが届きます。もしご登録頂いてから 1 日が経過してもメールが届かない場合は、大会主事（阪口翔太：sakaguchi.shota.6a[at]kyoto-u.ac.jp）までメールにてお問合せ下さい。

【事前準備】

講演会は Zoom で行いますので、事前に Zoom アプリをインストールして下さい。<Zoom アプリのインストール>ダウンロードページ (<https://zoom.us/download>) から、『ミーティング用 Zoom クライアント』を選んでダウンロードして下さい。

【オンラインサイト URL のご案内】

3月19日（金）に、ご登録済みアドレスへオンラインサイト URL をメールにてお送りします。

森林昆虫談話会

研究集会名：第 27 回森林昆虫談話会

日時：3月24日（水）9:00～12:00

開催方法：オンライン会議システム

3月16日（火）までに以下の Google フォームにオンライン会議参加の申請手続きを行って下さい。折り返しオンライン会議参加 URL をお送りいたします。

<https://forms.gle/LvqHQ7VKJxavnfEh6>

テーマ：森林昆虫研究の発展にむけて その 2

内容：「森林昆虫研究」と言っても研究内容は多岐にわたる。地域的かつ緊急的に現場対応が必要な課題、全国的に被害をもたらしている害虫に関する包括的な研究、昆虫－微生物共生系の多様性・進化に取り組む 3 名の方々に話題提供して頂き、基礎研究から現場への普及へと森林昆虫研究について広く議論する。

<話題提供>

1. 「マツ枯れ・ナラ枯れ被害最北地域の現状について」
伊藤 昌明 ((地独) 青森県産業技術センター林業研究所)
2. 「主要森林害虫の総論と各論：ナラ枯れ，トビクサレ，クビアカツヤカミキリなど」
衣浦 晴生 (森林総合研究所)
3. 「竹林の昆虫－微生物共生系」
土岐 和多瑠 (名古屋大学大学院生命農学研究科)

世話人：吉田 智弘 (東京農工大学)・松浦 崇遠 (富山県森林研究所)・松本 剛史 (森林総研)

連絡先：松本 剛史，〒305-8687 茨城県つくば市松の里 1 森林総合研究所 森林昆虫研究領

域, Tel. 029-829-8254, Fax. 029-873-1543, E-mail: mtakeshi@ffpri.affrc.go.jp

森林利用学会

研究集会名：森林利用学会理事会・総会

日程：3月26日（金）

開催方法：Zoom Webinar によるリモート会議（参加方法については、追って
学会ホームページとメーリングリストでお知らせいたします。）

連絡先：森林利用学会事務局，〒113-8657 東京都文京区弥生 1-1-1 東京大学大学院農学生
命科学研究科 森林利用学研究室内，

E-mail: jfes-office@jfes.jp

樹木病害研究会

研究集会名：樹木病害研究会

テーマ：北の樹木病害

日時：3月24日（水）9:00～12:00

内容：北方に生育する樹木類は種構成が一見単純ではあるが、広大に存在しており、重要な
木材資源であると同時に貴重な生態系サービスを提供している。そして、そこで発生する樹
木病害には、これらの構成樹種に特有の病害や、雪や寒さといった寒冷環境に適応した病害
が存在するなど、南方の樹木病害とは異なる様相を持つ。加えて、これらの病害の実態調査
や対策研究は広域なアプローチが必要とされるが、地域性を有するが故に、実態を知らぬも
のにとっては縁遠く思われるかもしれない。今回、北方の樹木病害について、研究経験を持
たれる諸兄に各々の分野と観点から研究紹介していただき、樹木病害全般への理解を深め
る機会としたい。

主な演者と題目（順不同）：

大澤 正嗣「カラマツ根株心腐病について」

田端 雅進「国産漆の使用 100%化に向けたウルシ林の健全性と病気」

坂上 大翼「北海道のトドマツ・エゾマツ類の苗畑に発生する病害

—東京大学演習林における事例—」

徳田 佐和子「北海道東部で発生しているカラマツの衰退枯死について」

開催方法：「Zoom」を用いたリモート開催

参加方法：申込み先メールアドレス treediseasejp@gmail.com へ

参加希望連絡を2月26日までに行ってください。（先着90名）

受付後、連絡したメールアドレスへミーティングの URL の連絡がありますの
で、「Zoom」をインストールして参加して戴きます。

担当幹事連絡先：

楠本 大 〒299-5503 千葉県鴨川市天津 770, 東京大学大学院農学生命科学研究科 附属千葉

演習林 Tel./Fax. 04-7094-0621/ 04-7094-2321, E-mail: kusumoto@uf.a.u-tokyo.ac.jp
石原 誠 〒062-0041 札幌市豊平区羊ヶ丘 7 番地, 森林総合研究所北海道支所, Tel./Fax. 011-851-4131/011-851-4167, E-mail: makolin@affrc.go.jp
高橋 由紀子 〒305-8687 茨城県つくば市松の里 1, 森林総合研究所きのこ・森林微生物研究領域 森林病理研究室, Tel./Fax. 029-829-8247 / 029-873-1543, E-mail: ytakah@ffpri.affrc.go.jp

林業経済学会

研究集会名：林業経済学会 2021 年春季大会シンポジウム

日時：3 月 24 日（水）10:00～17:30

会場：オンライン(視聴の方法等は, 追って学会の HP, メルマガでお知らせします)

テーマ：近代化と森林管理：知の普及に注目して

内容：森林管理は, 近代化のなかで大きく変化してきた。これまで手薄になっている日本帝国とその植民地における学知や技術の普及とその影響について, 開発と保全の関係に焦点を当てた報告と, 森林官の思想や行動に注目した報告を行う。「知の普及」をキーワードに, 「森林管理と近代化」という大きな課題に, 辺境的, 個別的, 傍流的な視点から, 自由な議論を展開したい。

座長：山本 伸幸（森林総合研究所）

報告者・報告タイトル：

中島 弘二（金沢大学）日本帝国における森林の開発と保全

竹本 太郎（東京農工大学）日本帝国における植民地森林官の思想と行動：齋藤音作の前半期の足跡から

コメンテーター：大田 真彦（九州工業大学）, 関岡 東生（東京農業大学）

連絡先：竹本 太郎, 〒183-8509 東京都府中市幸町 3-5-8 東京農工大学大学院農学研究院,

E-mail: take@go.tuat.ac.jp